

平成 19 年度化学物質調査結果について

平成 20 年 7 月

神奈川県環境農政部

目 次

I ダイオキシン類環境調査

1 常時監視調査及び環境実態調査	
(1) 調査の概要	1
(2) 調査結果	1
ア 大気調査結果	1
イ 公共用水域調査結果	3
ウ 土壌・地下水調査結果	8
エ 水生生物調査結果	11
2 汚染状況確認調査等結果	
(1) 汚染状況確認調査	11
ア 目久尻川調査	11
イ 引地川調査	14
ウ 重点監視調査	15
(2) 未規制発生源周辺環境調査	16
3 まとめ	18
4 今後の取組	18

II 化学物質環境モニタリング調査

1 大気環境調査	
(1) 調査の概要	19
(2) 調査結果	21
(3) まとめ	28
(4) 今後の取組	28
2 水域環境調査	
(1) 調査の概要	29
(2) 調査結果	30
(3) まとめ	32
(4) 今後の取組	33

(参考資料1) 平成19年度神奈川県内における ダイオキシン類測定結果	34
(参考資料2) 大気調査対象物質の概要について	38
(参考資料3) 水域調査対象物質の概要について	39

I ダイオキシン類環境調査

神奈川県では県域におけるダイオキシン類による汚染状況を把握するため、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく調査、過去に環境基準を超えた地点における汚染状況確認調査等を実施した。

1 常時監視調査及び環境実態調査

(1) 調査の概要

ア 目的

ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、ダイオキシン類による環境汚染の実態を把握するため、常時監視調査を実施する。また、常時監視調査を補完するため環境実態調査を実施する。

イ 調査内容及び地点数

大気、公共用水域（水質及び底質）、土壌、地下水及び水生生物について調査を行った。

大気調査は年4回、公共用水域、土壌及び地下水は年1回の調査を行った。

	常時監視調査	環境実態調査	合計
大気	14 地点	5 地点	19 地点
公共用水域	24 地点	8 地点	32 地点
土壌	15 地点	—	15 地点
地下水	8 地点	—	8 地点
合計			74 地点

水生生物は、河川及び湖沼で魚類について年1回調査を行った。

	常時監視調査	環境実態調査	合計
水生生物	—	4 地点	4 地点
合計			4 地点

(2) 調査結果

ア 大気調査結果

(7) 調査時期（試料採取日）

春季：平成19年 5月17日～ 24日
夏季：平成19年 8月16日～ 23日
秋季：平成19年11月15日～ 22日
冬季：平成20年 1月30日～2月6日

※1週間連続採取を実施

(イ) 調査結果（図 1 及び表 1）

・常時監視調査

14 地点全てで大気環境基準（ $0.6 \text{ pg} - \text{TEQ}/\text{m}^3$ 以下）を達成していた。年間の最大値（年 4 回測定の前平均値）は $0.056 \text{ pg} - \text{TEQ}/\text{m}^3$ 、最小値（年 4 回測定の前平均値）は $0.017 \text{ pg} - \text{TEQ}/\text{m}^3$ 、平均値は $0.036 \text{ pg} - \text{TEQ}/\text{m}^3$ であった。

・環境実態調査

5 地点全てで大気環境基準を達成していた。年間の最大値（年 4 回測定の前平均値）は $0.041 \text{ pg} - \text{TEQ}/\text{m}^3$ 、最小値（年 4 回測定の前平均値）は $0.017 \text{ pg} - \text{TEQ}/\text{m}^3$ 、平均値は $0.028 \text{ pg} - \text{TEQ}/\text{m}^3$ であった。



図 1 大気調査測定結果

表 1 大気常時監視及び環境実態調査結果一覧

No	市町村名	測定地点	ダイオキシン類(pg-TEQ/m ³)										
			19年度					18年度	17年度	16年度	15年度	14年度	
			5月	8月	11月	2月	年間平均値	年間平均値	年間平均値	年間平均値	年間平均値		
1	平塚市	平塚市役所	0.024	0.029	0.075	0.054	0.046	0.052	0.061	0.055	0.064	0.099	
2	鎌倉市	鎌倉市役所	0.032	0.049	0.047	0.044	0.043	0.048	0.054	0.031	0.055	0.081	
3	藤沢市	藤沢市役所	0.017	0.016	0.043	0.043	0.030	0.040	0.057	0.042	0.053	0.076	
4		御所見小学校	0.036	0.037	0.061	0.053	0.047	0.068	0.14	0.12	0.094	0.12	
5	小田原市	小田原市役所	0.018	0.023	0.021	0.023	0.021	0.022	0.034	0.038	0.027	0.054	
6	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市役所	0.026	0.027	0.046	0.050	0.037	0.047	0.086	0.059	0.073	0.11	
7	三浦市	三浦市役所	0.014	0.016	0.045	0.046	0.030	0.036	0.042	0.038	0.049	0.070	
8	秦野市	秦野市役所	0.026	0.025	0.053	0.035	0.035	0.050	0.068	0.061	0.055	0.11	
9	厚木市	厚木市役所	0.031	0.038	0.054	0.10	0.056	0.048	0.077	0.12	0.091	0.11	
10	大和市	大和市役所	0.037	0.030	0.044	0.032	0.036	0.045	0.073	0.050	0.065	0.11	
11	伊勢原市	伊勢原市役所	0.021	0.024	0.038	0.028	0.028	0.039	0.071	0.087	0.052	0.084	
12	南足柄市	南足柄市りんどう会館	0.012	0.020	0.020	0.016	0.017	0.029	0.025	0.032	0.033	0.051	
13	綾瀬市	綾瀬市役所	0.030	0.039	0.060	0.036	0.041	0.055	0.084	0.064	0.096	0.12	
14	愛川町	愛川町役場	0.025	0.034	0.052	0.037	0.037	0.047	0.097	0.064	0.074	0.12	
常時監視		最大値	0.037	0.049	0.075	0.10	0.056	0.068	0.14	0.12	0.096	0.12	
		最小値	0.012	0.016	0.020	0.016	0.017	0.022	0.025	0.031	0.027	0.051	
		平均値	0.025	0.029	0.047	0.043	0.036	0.045	0.069	0.062	0.063	0.094	
15	藤沢市	湘南台文化センター	0.021	0.021	0.061	0.041	0.036	—	0.070	0.067	0.066	0.11	
16	逗子市	逗子市役所	0.012	0.013	0.033	0.030	0.022	—	0.053	0.033	0.047	0.062	
17	厚木市	旧依知公民館	0.032	0.030	0.053	0.050	0.041	—	—	0.069	—	—	
18	二宮町	二宮町役場	0.016	0.014	0.032	0.029	0.023	—	—	—	0.043	—	
19	箱根町	箱根町役場	0.014	0.019	0.017	0.016	0.017	—	—	—	—	—	
環境実態調査		最大値	0.032	0.030	0.061	0.050	0.041						
		最小値	0.012	0.013	0.017	0.016	0.017						
		平均値	0.019	0.019	0.039	0.033	0.028						
最 大 値		0.037	0.049	0.075	0.10	0.056							
最 小 値		0.012	0.013	0.017	0.016	0.017							
平 均 値		0.023	0.027	0.045	0.040	0.034							

(備考)

- 1 地点1～14は常時監視地点、地点15～19は環境実態調査地点
- 2 平成16、17年度の鎌倉市は鎌倉生涯学習センター
- 3 平成15、16年度の厚木市は総合福祉センター
- 4 平成15年度の箱根町は湯本小学校
- 5 表中の—は調査実績がないことを示す

イ 公共用水域調査結果

(ア) 調査時期（試料採取日）

河川：平成19年11月7日～12月6日

湖沼：平成19年12月6日

海域：平成19年8月8日及び11月14日

(イ) 調査結果（図2～2-2及び表2～2-5）

水質については、32 地点全てで水質環境基準（1pg - TEQ/L 以下）を達成していた。最大値は 0.31pg - TEQ/L、最小値は 0.048pg - TEQ/L、平均値は 0.077pg - TEQ/L であった（表2-5）。

底質についても、32 地点全てで底質環境基準（150pg - TEQ/g 以下）を達成していた。最大値は 41pg - TEQ/g、最小値は 0.22pg - TEQ/g、平均値は 3.3pg - TEQ/g であった（表2-5）。

地点名

地点No	水域名	測定地点
1	下山川	下山橋
2	森戸川(葉山町)	森戸橋
3	田越川	渚橋
4	滑川	滑川橋
5	神戸川	神戸橋
9	境川	境川橋
13	引地川	富士見橋
17	相模川	寒川取水堰(上)
20	相模川	(中津川) 第1鮎津橋
25	相模川	(小出川) 宮の下橋
26	金目川	小田急鉄橋
27	金目川	花水橋
30	葛川	吉田橋
31	中村川	押切橋
33	森戸川(小田原市)	親木橋
34	酒匂川	県境
35	酒匂川	峰下橋
36	酒匂川	新十文字橋
37	酒匂川	報徳橋
38	酒匂川	飯泉取水堰(上)
39	酒匂川	酒匂橋
40	酒匂川	(川音川) 文久橋
41	酒匂川	(狩川) 狩川橋
42	山王川	山王橋
43	早川	観光会館前
44	早川	早川橋
45	新崎川	吉浜橋
46	千歳川	千歳橋
48	芦ノ湖	湖北中央部
49	芦ノ湖	湖東部
55	相模湾	湾央
56	相模湾	根府川沖

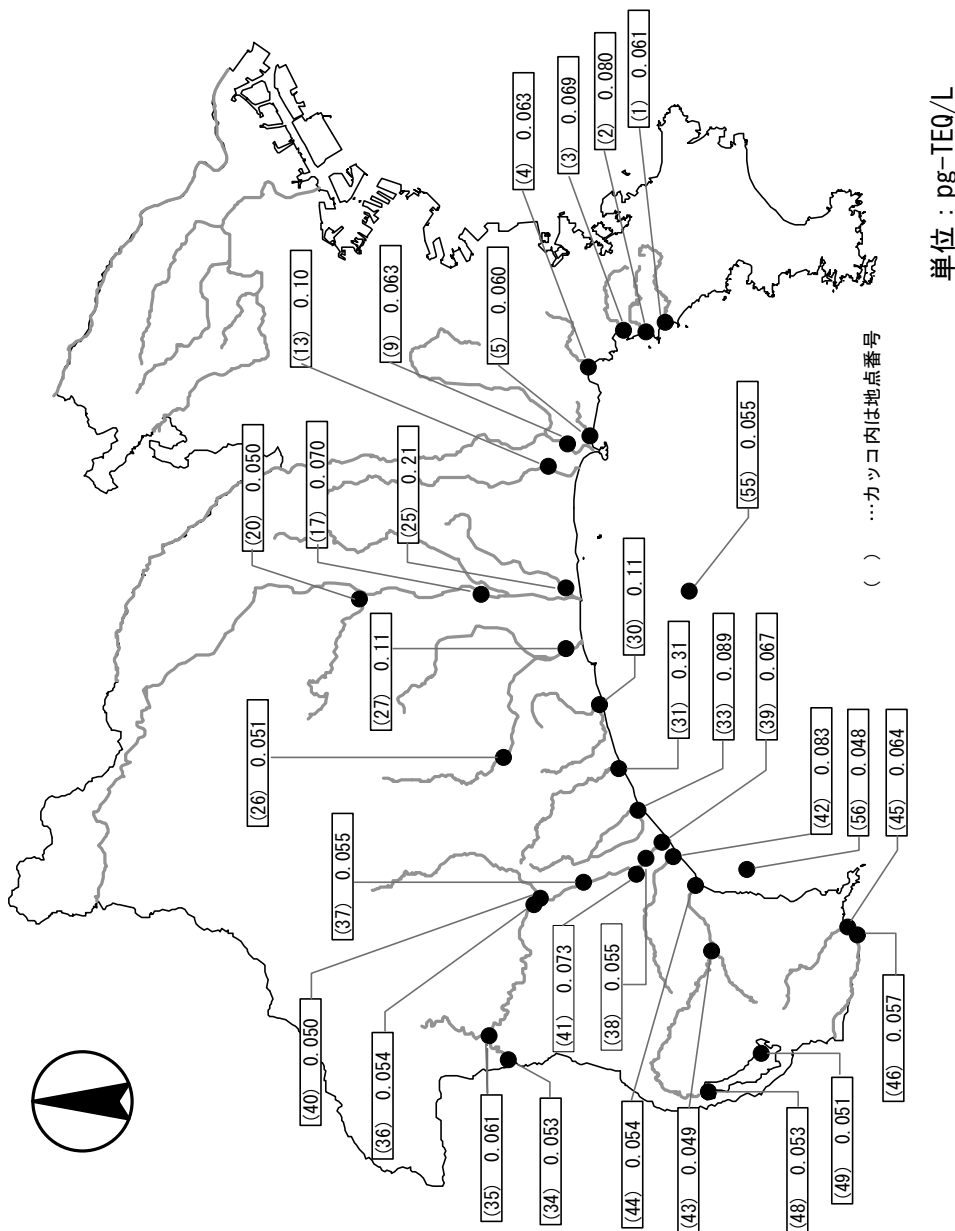


図2 公共用水域調査測定結果（水質）

地点名

地点No	水域名	測定地点
1	下山川	下山橋
2	森戸川(葉山町)	森戸橋
3	田越川	渚橋
4	滑川	滑川橋
5	神戸川	神戸橋
9	境川	境川橋
13	引地川	富士見橋
17	相模川	寒川取水堰(上)
20	相模川	第1鮎津橋 (中津川)
25	相模川	宮の下橋 (小出川)
26	金目川	小田急鉄橋
27	金目川	花水橋
30	葛川	吉田橋
31	中村川	押切橋
33	森戸川(小田原市)	親木橋
34	酒匂川	県境
35	酒匂川	峰下橋
36	酒匂川	新十文字橋
37	酒匂川	鞆徳橋
38	酒匂川	飯泉取水堰(上)
39	酒匂川	酒匂橋
40	酒匂川	文久橋 (川音川)
41	酒匂川	狩川橋 (狩川)
42	山王川	山王橋
43	早川	観光会館前
44	早川	早川橋
45	新崎川	吉浜橋
46	千歳川	千歳橋
48	芦ノ湖	湖北中央部
49	芦ノ湖	湖東部
55	相模湾	湾央
56	相模湾	根府川沖

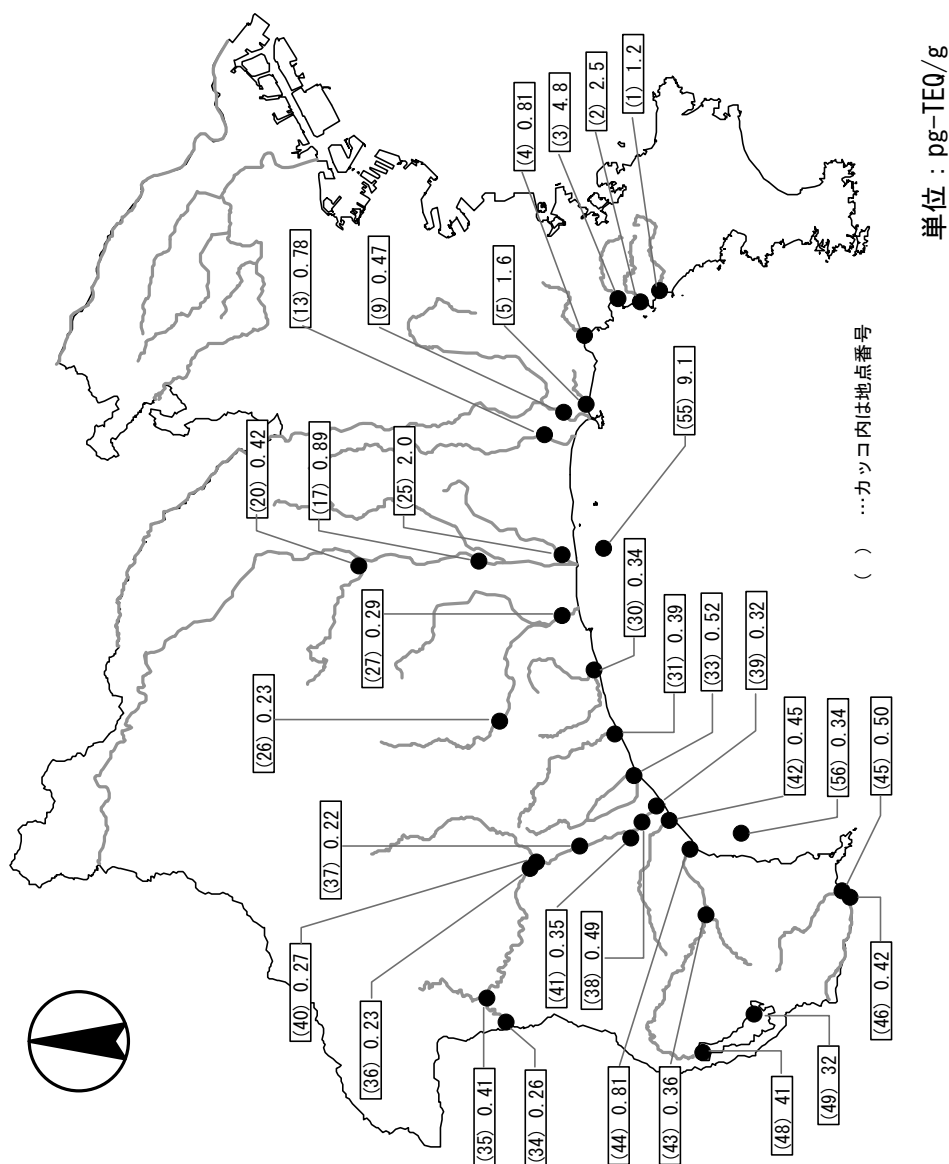


図 2-2 公共用水域調査測定結果 (底質)

表2 河川調査結果一覧（水質）

No	水域名		地点名	採取日	水質 (pg-TEQ/L)					
					H19	H18	H17	H16	H15	H14
1	下山川		下山橋	H19.11.7	0.061	0.037	0.10	0.19	0.18	0.11
2	森戸川(葉山町)		森戸橋	H19.11.7	0.080	0.053	0.077	0.12	0.12	0.11
3	田越川		渚橋	H19.11.7	0.069	0.083	0.072	0.047	0.17	0.11
4	滑川		滑川橋	H19.11.7	0.063	0.032	0.080	0.087	0.087	0.060
5	神戸川		神戸橋	H19.11.7	0.060	0.056	0.088	0.056	0.075	0.070
6	境川		鶴間橋	—	—	—	0.11	—	—	—
7			新道大橋	—	—	—	0.11	—	—	—
8			大道橋	—	—	—	0.087	—	—	—
9			境川橋	H19.11.7	0.063	0.093	0.11	0.082	0.078	0.11
10	境川	柏尾川	川名橋	—	—	—	0.14	—	—	—
11	引地川		下土棚大橋	—	—	—	0.35	—	—	—
12			石川橋	—	—	—	0.41	—	—	—
13			富士見橋	H19.11.16	0.10	0.19	0.17	0.67	0.25	0.44
14	相模川		小倉橋	—	—	0.058	—	—	0.051	—
15			昭和橋	—	—	0.035	—	—	0.064	—
16			相模大橋	—	—	0.025	—	—	0.062	—
17			寒川取水堰(上)	H19.11.16	0.070	0.030	0.070	0.097	0.071	0.071
19	相模川	鳩川	馬船橋	—	—	0.22	—	—	0.17	—
20		中津川	第1鮎津橋	H19.11.7	0.050	0.023	0.062	—	0.057	—
21		小鮎川	第2鮎津橋	—	—	0.033	—	—	0.065	—
22		玉川	相川水位観測所	—	—	0.027	—	—	0.054	—
23		永池川	新竹沢橋	—	—	0.14	—	—	0.067	—
24		目久尻川	河原橋	—	—	0.19	—	—	0.60	—
25	小出川		宮の下橋	H19.11.9	0.21	—	0.14	—	—	—
26	金目川		小田急鉄橋	H19.11.7	0.051	0.026	0.066	0.033	0.050	0.13
27			花水橋	H19.11.7	0.11	0.085	0.074	0.17	0.074	0.23
28	金目川	鈴川	下之宮橋	—	—	—	0.18	—	—	0.12
29		渋田川	立堀橋	—	—	—	0.29	—	—	0.32
30	葛川		吉田橋	H19.11.9	0.11	0.16	0.21	0.038	0.12	0.13
31	中村川		押切橋	H19.11.9	0.31	0.046	0.063	0.060	0.087	0.076
32	森戸川(小田原市)		万石橋	—	—	—	0.080	—	—	0.058
33			親木橋	H19.11.8	0.089	0.11	0.15	0.14	0.12	0.16
34	酒匂川		県境	H19.11.20	0.053	—	—	0.054	—	0.065
35			峰下橋	H19.11.20	0.061	—	—	0.12	—	0.074
36			十文字橋 (新十文字橋)	H19.11.20	0.054	—	—	0.045	—	0.072
37			報徳橋	H19.11.20	0.055	—	—	0.029	—	0.052
38			飯泉取水堰(上)	H19.11.8	0.055	0.053	0.063	0.065	0.075	0.072
39			酒匂橋	H19.11.8	0.067	0.036	0.12	0.11	0.065	0.092
40	酒匂川	川音川	文久橋	H19.11.20	0.050	—	—	0.025	—	0.046
41		狩川	狩川橋	H19.12.6	0.073	—	—	0.092	—	0.33
42	山王川		山王橋	H19.11.9	0.083	0.053	0.21	0.19	0.084	0.11
43	早川		観光会館前	H19.11.14	0.049	—	—	0.079	—	0.074
44			早川橋	H19.11.14	0.054	0.026	0.25	0.11	0.051	0.063
45	新崎川		吉浜橋	H19.11.14	0.064	0.029	0.076	0.074	0.058	0.057
46	千歳川		千歳橋	H19.11.14	0.057	0.031	0.093	0.15	0.081	0.069
			最大値		0.31	0.22	0.41	0.67	0.60	0.44
			最小値		0.049	0.023	0.062	0.025	0.050	0.046
			平均値		0.081	0.071	0.14	0.11	0.11	0.12

〈備考〉

台風9号の影響で十文字橋が落橋したため、新十文字橋で採取した。

 は、河川の常時監視地点20地点を示す

表 2 - 2 河川調査結果一覧（底質）

No	水域名		地点名	採取日	底質 (pg-TEQ/g)					
					H19	H18	H17	H16	H15	H14
1	下山川		下山橋	H19.11.7	1.2	2.1	1.6	2.3	1.4	1.7
2	森戸川(葉山町)		森戸橋	H19.11.7	2.5	2.3	1.7	2.8	1.9	1.6
3	田越川		渚橋	H19.11.7	4.8	24	12	8.3	8.3	15
4	滑川		滑川橋	H19.11.7	0.81	1.0	0.62	0.82	1.9	1.2
5	神戸川		神戸橋	H19.11.7	1.6	1.1	2.0	1.6	2.7	1.2
6	境川		鶴間橋	—	—	—	0.64	—	—	—
7			新道大橋	—	—	—	1.7	—	—	—
8			大道橋	—	—	—	0.90	—	—	—
9			境川橋	H19.11.7	0.47	0.94	0.68	0.21	0.41	0.89
10	境川	柏尾川	川名橋	—	—	—	0.65	—	—	—
11	引地川		下土棚大橋	—	—	—	4.3	—	—	—
12			石川橋	—	—	—	1.3	—	—	—
13			富士見橋	H19.11.16	0.78	0.79	1.8	1.3	1.3	4.6
14	相模川		小倉橋	—	—	0.33	—	—	0.68	—
15			昭和橋	—	—	1.9	—	—	3.0	—
16			相模大橋	—	—	0.28	—	—	0.57	—
17			寒川取水堰(上)	H19.11.16	0.89	2.7	4.9	1.3	13	7.8
19	相模川	鳩川	馬船橋	—	—	3.9	—	—	10	—
20		中津川	第1鮎津橋	H19.11.7	0.42	0.35	0.34	—	0.57	—
21		小鮎川	第2鮎津橋	—	—	0.50	—	—	0.66	—
22		玉川	相川水位観測所	—	—	0.33	—	—	1.0	—
23		永池川	新竹沢橋	—	—	4.5	—	—	1.7	—
24		目久尻川	河原橋	—	—	1.0	—	—	1.1	—
25	小出川		宮の下橋	H19.11.9	2.0	—	3.3	—	—	—
26	金目川		小田急鉄橋	H19.11.7	0.23	0.23	0.31	0.34	0.36	0.19
27			花水橋	H19.11.7	0.29	0.23	0.48	0.17	0.41	0.87
28	金目川	鈴川	下之宮橋	—	—	—	0.50	—	—	0.60
29		渋田川	立堀橋	—	—	—	3.8	—	—	9.2
30	葛川		吉田橋	H19.11.9	0.34	0.41	2.5	0.70	3.1	0.55
31	中村川		押切橋	H19.11.9	0.39	0.33	0.66	0.32	0.34	0.54
32	森戸川(小田原市)		万石橋	—	—	—	0.45	—	—	0.28
33			親木橋	H19.11.8	0.52	0.49	0.59	0.33	0.38	0.90
34	酒匂川		県境	H19.11.20	0.26	—	—	0.14	—	0.19
35			峰下橋	H19.11.20	0.41	—	—	0.26	—	0.63
36			十文字橋 (新十文字橋)	H19.11.20	0.23	—	—	0.27	—	0.17
37			報徳橋	H19.11.20	0.22	—	—	0.26	—	0.16
38			飯泉取水堰(上)	H19.11.8	0.49	0.66	0.28	0.21	0.34	0.20
39			酒匂橋	H19.11.8	0.32	0.31	0.23	0.12	0.15	0.16
40	酒匂川	川音川	文久橋	H19.11.20	0.27	—	—	0.28	—	0.16
41		狩川	狩川橋	H19.12.6	0.35	—	—	0.094	—	0.24
42	山王川		山王橋	H19.11.9	0.45	0.99	2.0	0.39	0.39	0.61
43	早川		観光会館前	H19.11.14	0.36	—	—	0.15	—	0.71
44			早川橋	H19.11.14	0.81	0.38	0.44	0.39	0.37	0.42
45	新崎川		吉浜橋	H19.11.14	0.50	0.45	0.54	0.31	0.89	0.35
46	千歳川		千歳橋	H19.11.14	0.42	0.49	0.71	0.20	0.35	0.28
			最大値		4.8	24	12	8.3	13	15
			最小値		0.22	0.23	0.23	0.094	0.15	0.16
			平均値		0.80	1.9	1.7	0.91	2.0	1.8

〈備考〉

台風9号の影響で十文字橋が落橋したため、新十文字橋で採取した。

 は、河川の常時監視地点20地点を示す

表 2-3 湖沼調査結果一覧

No	水域名	地点名	採取日	水質 (pg-TEQ/L)						底質 (pg-TEQ/g)					
				H19	H18	H17	H16	H15	H14	H19	H18	H17	H16	H15	H14
47	相模湖	境川橋	—	—	0.16	—	—	—	0.10	—	6.3	—	—	—	3.4
48	芦ノ湖	湖北中央部	H19.12.6	0.053	—	0.069	0.095	—	0.049	41	—	—	18	—	20
49		湖東部	H19.12.6	0.051	—	0.065	0.083	—	0.041	32	—	—	34	—	47
50	丹沢湖	湖央部	—	—	—	—	0.032	—	0.067	—	—	—	2.5	—	4.3
最大値				0.053	0.16	0.069	0.095	—	0.10	41	6.3	—	34	—	47
最小値				0.051	0.16	0.065	0.032	—	0.041	32	6.3	—	2.5	—	3.4
平均値				0.052	0.16	0.067	0.070	—	0.064	37	6.3	—	18	—	19

表 2-4 海域調査結果一覧

No	水域名	地点名	採取日	水質 (pg-TEQ/L)						底質 (pg-TEQ/g)					
				H19	H18	H17	H16	H15	H14	H19	H18	H17	H16	H15	H14
51	東京湾	中ノ瀬北	—	—	0.029	—	—	0.042	0.061	—	4.7	—	—	15	13
52		辻堂沖	—	—	—	0.061	—	—	0.050	—	—	1.4	—	—	0.91
53		城ヶ島沖	—	—	0.022	—	—	0.041	0.057	—	0.69	—	—	1.9	1.1
54		由比ヶ浜沖	—	—	—	0.057	—	—	0.047	—	—	2.3	—	—	0.85
55		湾 央	H19.8.8	0.055	—	0.056	—	—	0.040	9.1	—	23	—	—	20
56		根府川沖	H19.8.8	0.048	—	0.052	—	—	0.039	0.34	—	1.9	—	—	7.5
			最大値	0.055	0.029	0.061	—	0.042	0.061	9.1	4.7	23	—	15	20
			最小値	0.048	0.022	0.052	—	0.041	0.039	0.34	0.69	1.4	—	1.9	0.85
		平均値	0.052	0.026	0.057	—	0.042	0.049	4.7	2.7	7.2	—	8.5	7.2	

〈備考〉

相模湾湾央の底質のみH19,11,14に採取した。

表 2-5 全調査地点の平均値等

	水質 (pg-TEQ/L)						底質 (pg-TEQ/g)					
	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H19	H18	H17	H16	H15	H14
最大値	0.31	0.22	0.41	0.67	0.60	0.44	41	24	23	34	15	47
最小値	0.048	0.022	0.052	0.025	0.041	0.039	0.22	0.23	0.23	0.094	0.15	0.16
平均値	0.077	0.071	0.12	0.11	0.11	0.10	3.3	2.1	2.4	2.7	2.5	4.3

ウ 土壌・地下水調査結果

(7) 調査時期（試料採取日）

平成 19 年 10 月 4 日～30 日（表 3、表 3-2 の採取日を参照）

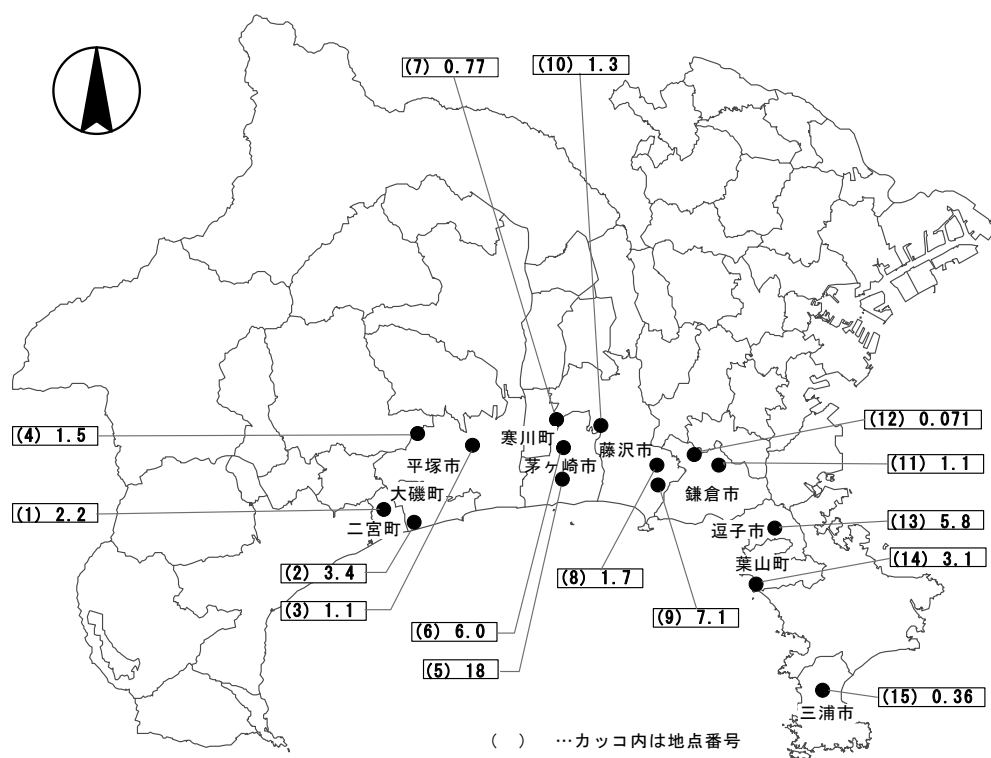
(イ) 調査結果（表 3～3-2 及び図 3～3-2）

土壌については、15 地点全てで土壌環境基準（1,000pg - TEQ/g 以下）を達成していた。また、追加的な調査が必要とされる基準（250pg - TEQ/g 以上）も下回っていた。最大値は 18pg - TEQ/g、最小値は 0.071pg - TEQ/g、平均値は 3.6 pg - TEQ/g であった。

地下水については、8 地点全てで水質環境基準（1pg - TEQ/L 以下）を達成していた。最大値は 0.082pg - TEQ/L、最小値は 0.015pg - TEQ/L、平均値 0.036pg - TEQ/L であった。

表 3 土壌調査結果一覧

地点番号	調査地点	採取日	土壌(pg-TEQ/g)
1	二宮町百合が丘	H19.10.11	2.2
2	大磯町国府新宿	H19.10.11	3.4
3	平塚市豊田本郷	H19.10.11	1.1
4	平塚市真田	H19.10.11	1.5
5	茅ヶ崎市茅ヶ崎	H19.10.4	18
6	茅ヶ崎市松風台	H19.10.4	6.0
7	寒川町大蔵	H19.10.11	0.77
8	藤沢市藤が岡	H19.10.30	1.7
9	藤沢市川名字新林	H19.10.30	7.1
10	藤沢市遠藤	H19.10.30	1.3
11	鎌倉市高野	H19.10.4	1.1
12	鎌倉市玉縄	H19.10.4	0.071
13	逗子市桜山	H19.10.30	5.8
14	葉山町下山口	H19.10.25	3.1
15	三浦市初声町	H19.10.25	0.36
最大値			18
最小値			0.071
平均値			3.6

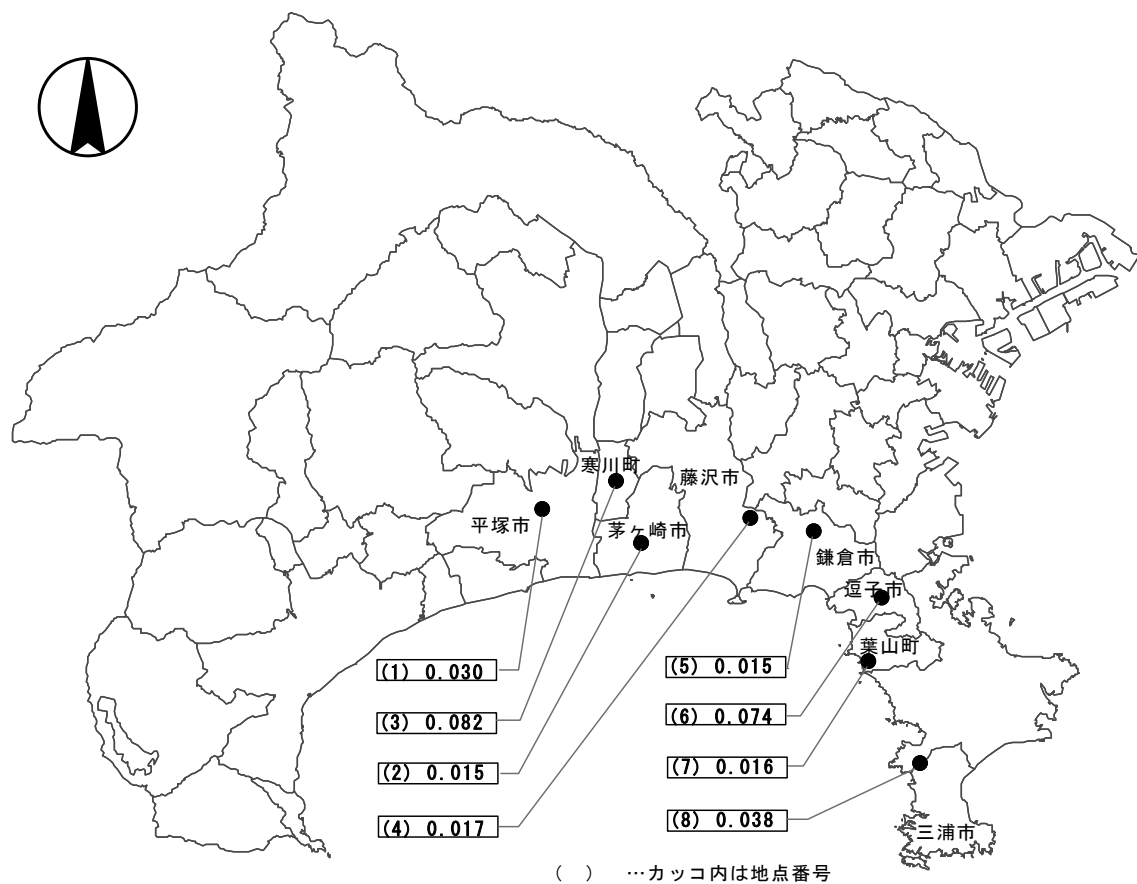


単位 : pg-TEQ/g

図 3 - 1 土壌調査測定結果

表 3 - 2 地下水調査結果一覧

地点番号	地点名	採取日	地下水 (pg-TEQ/L)
1	平塚市豊田宮下	H19.10.11	0.030
2	茅ヶ崎市茅ヶ崎	H19.10.4	0.015
3	寒川町宮山	H19.10.11	0.082
4	藤沢市大鋸	H19.10.30	0.017
5	鎌倉市小袋谷	H19.10.4	0.015
6	逗子市池子	H19.10.30	0.074
7	葉山町下山口	H19.10.25	0.016
8	三浦市初声町和田	H19.10.25	0.038
最大値			0.082
最小値			0.015
平均値			0.036



単位 : pg-TEQ/L

図 3 - 2 地下水調査測定結果

エ 水生生物調査結果

(7) 調査時期

平成 19 年 9 月 26 日～10 月 15 日（表 4 採取日を参照）

(イ) 調査結果（表 4）

3 河川 1 湖沼でその場所に生息する水生生物を対象に調査を行った結果、最大 1.5pg - TEQ/g-wet、最小 0.73pg - TEQ/g-wet、平均 0.97pg - TEQ/g-wet であり、それぞれの生物種における過去の全国調査結果（参考 1 及び 2）の範囲内であった。

表 4 平成 19 年度ダイオキシン類水生生物調査結果

単位:pg-TEQ/g-wet

地点番号	調査地点名	生物種	採取日	濃度(筋肉部)
1	目久尻川	コイ	H19.10.6	0.86
2	小出川	コイ	H19.10.13	0.80
3	相模川	フナ類	H19.9.26～29	0.73
4	芦ノ湖	オオクチバス	H19.10.15	1.5

（参考 1） 全国調査結果（平成 10 年度、11 年度 環境省）

単位:pg-TEQ/g-wet

魚種	平成10年度			平成11年度		
	検出範囲	平均値	検体数	検出範囲	平均値	検体数
コイ	0.061～30	3.2	39	0.091～25	1.9	86
フナ	0.054～13	1.4	70	0.2～16	1.7	44
オオクチバス	0.84～3.7	2.5	5	0.2～3.9	0.99	10

（参考 2） 全国調査結果（平成 15～17 年度 農林水産省）

単位:pg-TEQ/g-wet

魚種	検出範囲	平均値	検体数
コイ	0.091～25	1.9	86
フナ	0.2～16	1.2	44
オオクチバス	0.20～4.4	2.5	10

2 汚染状況確認調査等結果

(1) 調査の概要

過去の調査で環境基準を超えた地点、環境基準値の 1/2 を越えた地点において、汚染状況を確認するため継続して調査を行った。

(2) 調査結果

ア 汚染状況確認調査

(7) 目久尻川調査

a 経緯

平成 12 年 7 月に実施した調査において、目久尻川下流の宮山大橋の水質が 1.8pg - TEQ/L と環境基準（1pg - TEQ/L 以下）を超過していることを確認した。

平成 13 年度以降、目久尻川と同河川への流入水について、継続して調査を行ってきたところ、夏季に濃度が高いことを確認した。そこで平成 18 年度に水質について調査回数を増やし、年 4 回監視調査を行ったところ、過去に使用された水田農薬由来のダイオキシン類であると推定された※。

平成 19 年度も引き続き汚染の実態を確認するため、水質及び底質について監視調査を行った。

※平成 19 年 5 月公表

これまでの調査で、流入水（宮山）の流域にはダイオキシン類を排出する事業所が確認されず、夏季に浮遊物質（SS）が高くダイオキシン類が高濃度となることが分かっており、これらのこととダイオキシン類の同族体・異性体別の濃度分布から、原因は、主に昭和 30 年代後半から昭和 40 年代初めにかけて使用された除草剤中に不純物として微量に含まれ、水田土壌中に残留しているダイオキシン類であると推定した。

水田土壌中に残留するダイオキシン類の濃度は、流入水（宮山）周辺の 2 地点で 210pg-TEQ/g 及び 180pg-TEQ/g（平成 14 年 県環境科学センター調査）であり、いずれも土壌環境基準（1000pg - TEQ/g 以下）を達成していた。

なお、作物については、土壌中からのダイオキシン類の吸収はほとんどないことが国の研究で確認されている。

b 調査内容

(a) 調査日

春季：平成 19 年 5 月 22 日

夏季：平成 19 年 8 月 14 日

秋季：平成 19 年 11 月 16 日

冬季：平成 20 年 1 月 16 日

(b) 調査地点及び内容

目久尻川：宮山大橋（水質及び底質）

水路：流入水（本郷 1）、流入水（本郷 2）、流入水（宮山）（水質）

c 調査結果（表 5 及び図 4）

目久尻川に流入する水路の流入水（宮山）で、水質において夏季に 4.6pg - TEQ/L、年間平均値で 1.4pg - TEQ/L と、昨年度の調査結果と同様に水質環境基準（1pg - TEQ/L 以下）を超過した。

その他の調査地点では、水質及び底質ともに、環境基準（水質：1pg - TEQ/L 以下、底質：150pg - TEQ/g 以下）を達成していた。

表5 目久尻川周辺調査結果

(単位:水質:pg-TEQ/L, 底質:pg-TEQ/g)

調査地点		H19					H18					H17		
		春季	夏季	秋季	冬季	年平均	春季	夏季	秋季	冬季	年平均	夏季	冬季	年平均
流入水(本郷1)	水質	0.64	0.46	0.11	0.17	0.35	0.54	0.52	0.15	0.18	0.35	0.75	0.31	0.53
流入水(本郷2)	水質	0.20	0.31	0.23	0.074	0.20	0.93	0.36	0.17	0.16	0.41	--	--	--
流入水(宮山)	水質	0.66	4.6	0.24	0.068	1.4	0.67	4.6	0.29	0.088	1.4	3.4	0.13	1.8
宮山大橋	水質	0.34	0.69	0.18	0.10	0.33	0.83	0.95	0.13	0.12	0.51	0.43	0.13	0.28
	底質	--	1.3	--	--	1.3	--	1.4	--	--	1.4	1.0	--	1.0

調査地点		H16				H15			H14			H13		H12	
		秋季	冬季(12月)	冬季(2月)	年平均	夏季	冬季	年平均	夏季	冬季	年平均	冬季	年平均	夏季	年平均
流入水(本郷1)	水質	--	0.090	0.17	0.13	0.36	0.10	0.23	0.74	0.27	0.51	1.3	1.3	--	--
流入水(本郷2)	水質	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
流入水(宮山)	水質	--	0.091	0.098	0.095	2.7	0.051	1.4	4.5	0.19	2.3	0.10	0.10	--	--
宮山大橋	水質	--	0.20	0.13	0.17	0.61	0.21	0.41	0.85	0.47	0.66	0.20	0.20	1.8	1.8
	底質	0.44	--	--	0.44	0.77	--	0.77	1.9	--	1.9	6.6	6.6	3.1	3.1

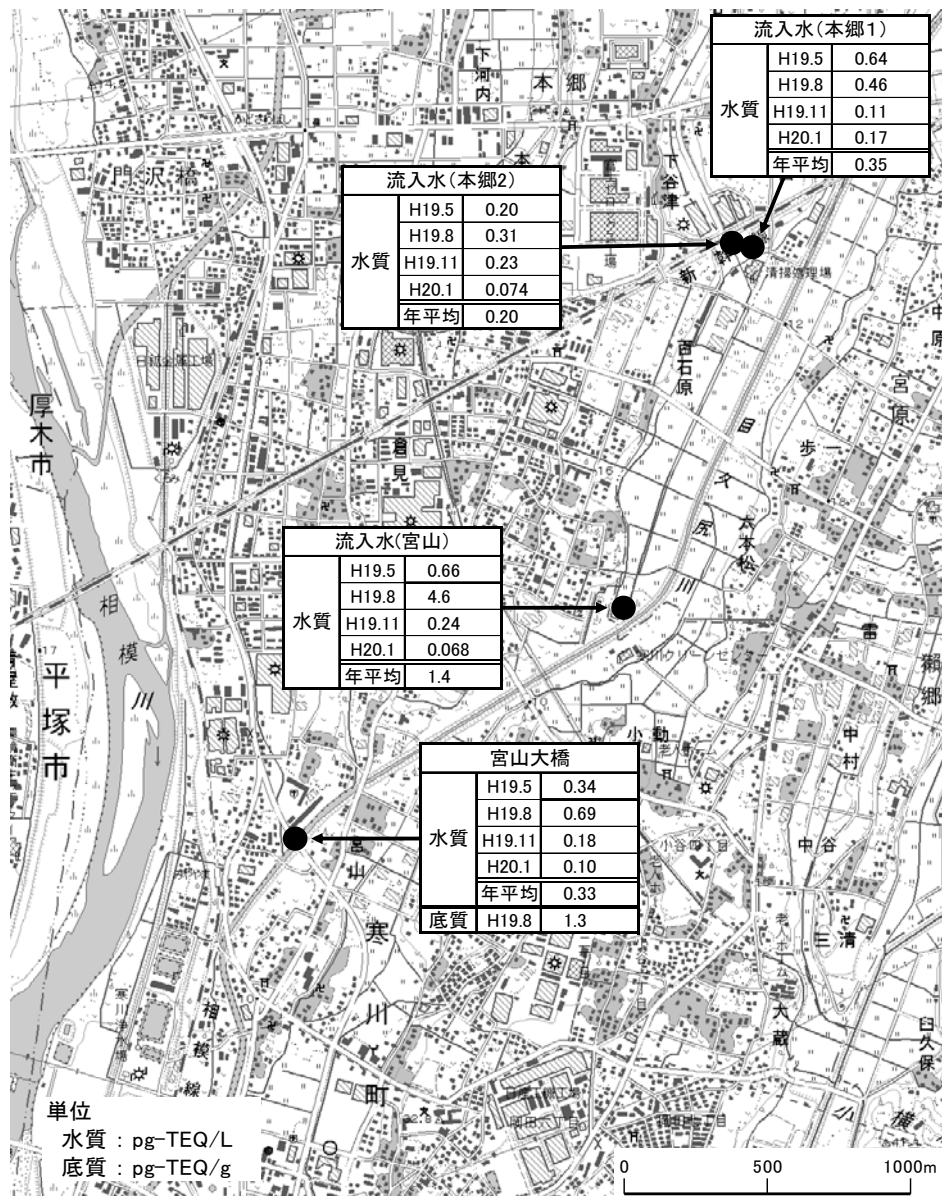


図4 目久尻川周辺調査結果図表

(イ) 引地川調査

a 経緯

平成 12 年の引地川水系ダイオキシン汚染事件*に関連して、その後の状況を把握するため、平成 13 年度から毎年水質及び底質について引地川下流域で調査を行っている。

※(株)荏原製作所藤沢事業所に設置された廃棄物焼却炉のスクラバー排水が雨水管に誤接続され、未処理のまま引地川本川の高名橋地点に流入する稲荷雨水幹線に放流されたことから、公共用水域で高濃度のダイオキシン類が検出された事件である。

b 調査内容

(a) 調査日及び内容

夏季：平成 19 年 8 月 13 日（水質及び底質）

冬季：平成 20 年 1 月 16 日（水質）

(b) 調査地点

引地川下流域の竜宮橋

c 調査結果（表 6 及び図 5）

水質及び底質ともに環境基準（水質：1pg - TEQ/L 以下、底質：150pg - TEQ/g 以下）を達成していました。

表 6 引地川下流域（竜宮橋）調査結果

(単位:水質;pg-TEQ/L, 底質;pg-TEQ/g)

調査地点		H19			H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12		
		夏季	冬季	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均		
竜宮橋	水質	0.24	0.13	0.19	0.17	0.11	0.10	0.16	0.15	0.21	0.084		
	底質	2.0	—	2.0	1.4	1.0	4.4	1.0	2.6	4.7	右岸	中央	左岸
											110	7.3	31

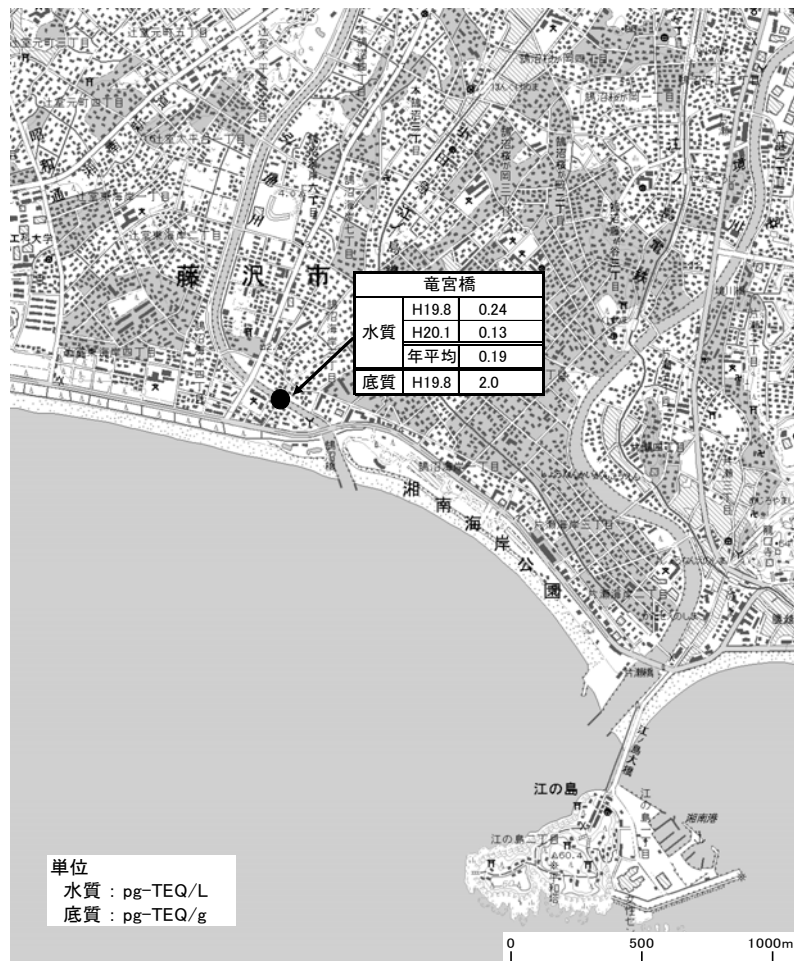


図5 引地川下流域調査結果図表

(ウ) 重点監視調査

a 経緯

水域における過去の常時監視調査及び環境実態調査において、環境基準値の1/2を超過するダイオキシン類が検出された地点について、年間の水質測定回数を4回に増やし、季節変動や汚染の兆候を把握するため、継続して調査を行っている。

b 調査内容

(a) 調査日

春季 : 平成19年 5月22日及び6月4日 (水質)
 夏季 : 平成19年 8月13日及び14日 (水質及び底質)
 秋季 : 平成19年 11月9日及び16日 (水質及び底質)
 冬季 : 平成20年 1月16日及び2月6日 (水質)

(b) 調査地点

相模川 (目久尻川) の河原橋
 相模川 (小出川) の宮の下橋
 引地川の石川橋
 引地川の富士見橋

c 調査結果（表 7 及び図 6）

全地点で、水質及び底質ともに環境基準（水質：1pg - TEQ/L 以下、底質：150pg - TEQ/g 以下）を達成した。

表 7 重点監視調査結果

河川名	調査地点		H19					H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12
			春季	夏季	秋季	冬季	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均
			水質	底質	水質	底質	水質	底質	水質	底質	水質	底質	水質	底質
相模川 (目久尻川)	河原橋	水質	0.43	0.70	0.23	0.13	0.37	0.49	—	—	0.60	—	0.77	—
		底質	—	1.4	—	—	1.4	1.0	—	—	1.1	—	2.9	—
相模川 (小出川)	宮の下橋	水質	0.78	0.27	0.21※	0.39	0.41	0.68	0.14	—	—	—	0.56	—
		底質	—	—	2.0※	—	2.0	1.9	3.3	—	—	—	2.5	—
引地川	石川橋	水質	0.55	0.29	0.10	0.12	0.27	0.30	0.41	—	—	—	—	0.97
		底質	—	0.99	—	—	0.99	0.90	1.3	—	—	—	—	1.3
引地川	富士見橋	水質	0.82	0.28	0.10※	0.13	0.33	0.37	0.17	0.67	0.25	0.44	0.23	0.84
		底質	—	—	0.78※	—	0.78	0.79	1.8	1.3	1.3	4.6	1.5	2.6

〈備考〉

※宮の下橋及び富士見橋の秋季調査は常時監視調査の結果を掲載

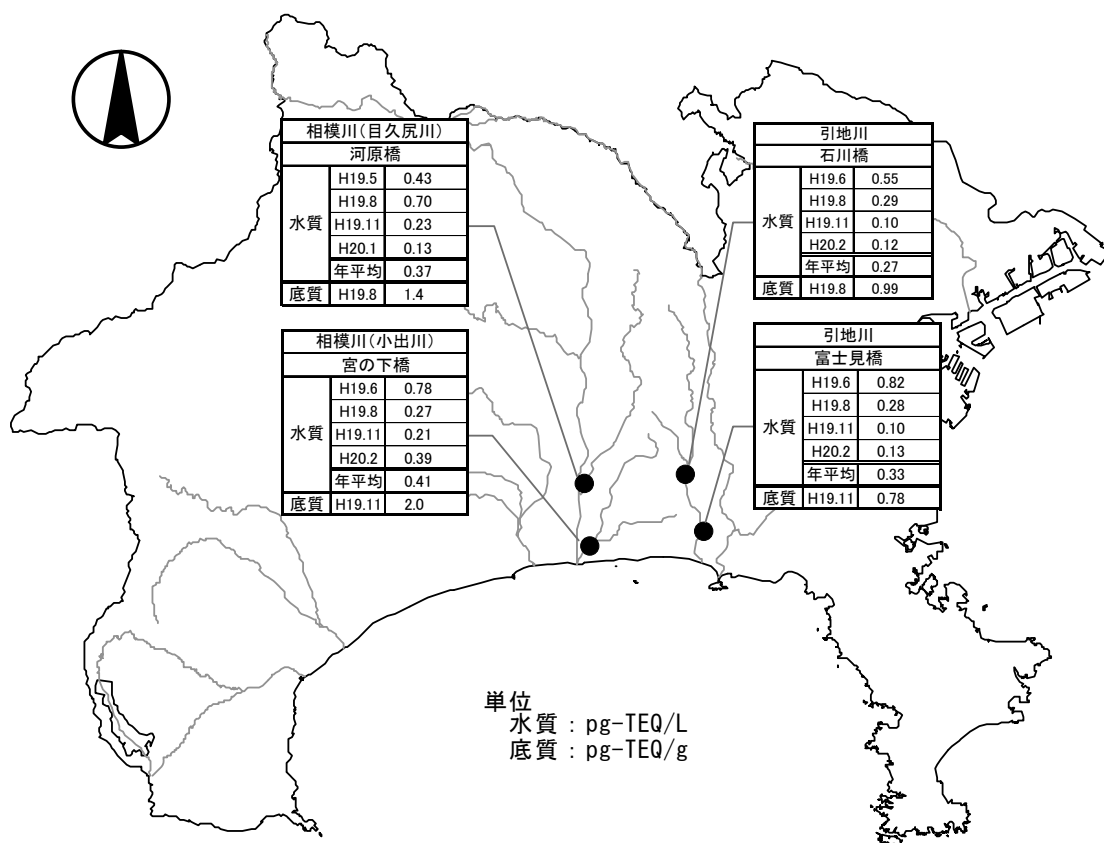


図 6 重点監視調査結果図表

イ 未規制発生源周辺環境調査

(7) 経緯

平成 13 年末に藤沢市が行った調査により、引地川の支川である一色川に流入する雨水排水路の水質が 6.2pg - TEQ/L と水質環境基準（1pg - TEQ/L 以下）を超過していることが判明した。

平成 14 年に行った発生源究明調査により、ダイオキシン法の未規制発生源から

の排水及び排出ガス中にダイオキシン類が含まれていることが確認されたことから、当該事業所に排出抑制対策を要請するとともに、周辺環境調査※を実施している。

平成 18 年度の夏季に一時的に水質環境基準を超過したことから、平成 19 年度は、一色下橋排出口と一色川に合流した後の下流部における水質等について調査を行った。

なお、本県では、未規制発生源を確認して以降、ダイオキシン法の規制対象施設とするよう環境省へ要望している。

※大気調査については毎年継続して調査を行ってきたところ、環境基準を達成している状態が数年にわたって続いたため、平成 18 年度の調査で終了した。

(イ) 調査内容

a 調査地点

一色川一色下橋の排出口及び下流部

b 調査期間

夏季：平成 19 年 8 月 30 日（水質）

冬季：平成 20 年 2 月 6 日（水質及び底質）

(ウ) 調査結果（表 8 及び図 7）

水質及び底質ともに、全地点において環境基準（水質：1pg - TEQ/L 以下、底質：150pg - TEQ/g 以下）を達成した。

表 8 周辺水域調査結果

（単位：水質；pg-TEQ/L, 底質；pg-TEQ/g）

調査地点		H19			H18			H17	H16	H15
		夏季	冬季	年平均	夏季	冬季	年平均	年平均	年平均	年平均
一色下橋排出口	水質	0.68	0.54	0.61	1.3	0.13	0.72	0.72	0.68	2.0
一色下橋下流部	水質	0.16	0.20	0.18	--	--	--	--	--	--
	底質	--	5.1	5.1	--	--	--	--	--	--

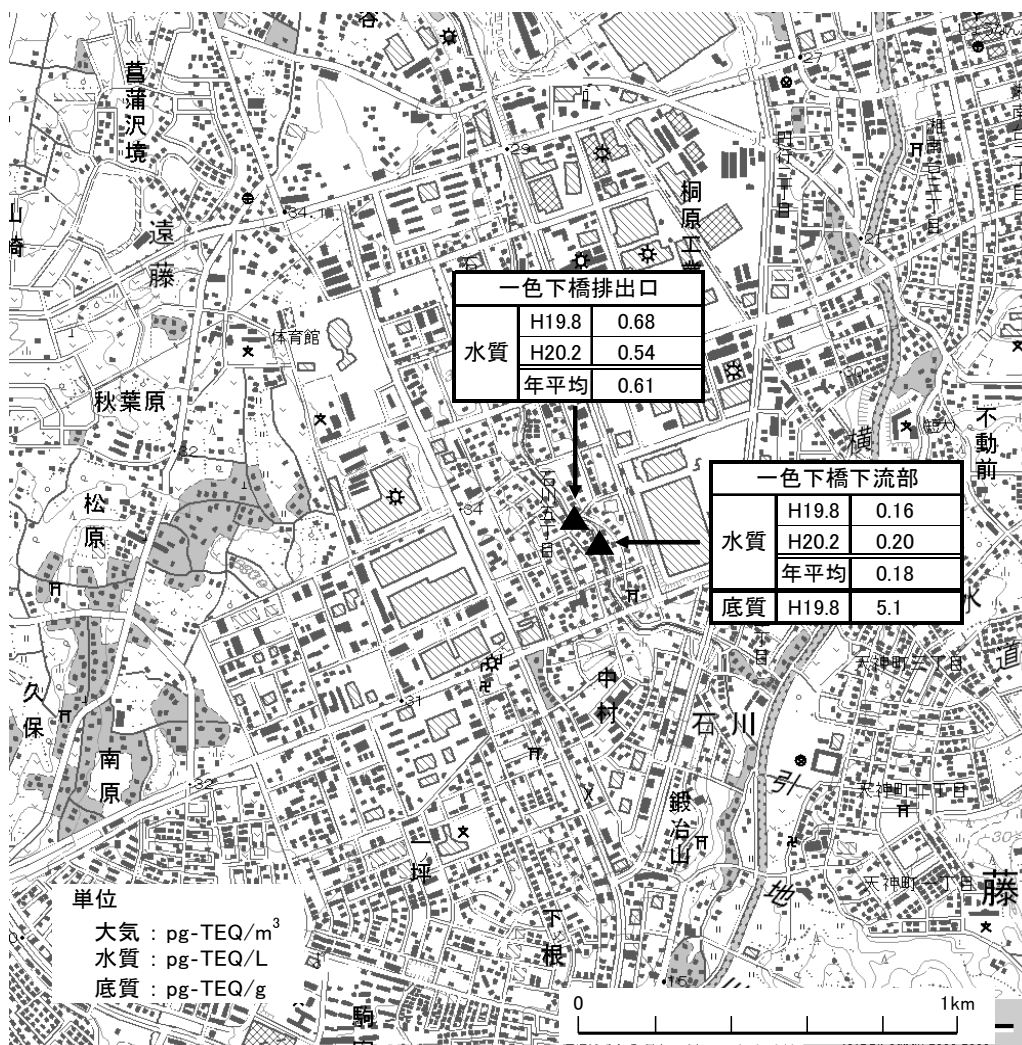


図7 未規制発生源周辺調査地点

3 まとめ

- 常時監視調査及び環境実態調査として、大気、公共用水域（水質及び底質）、土壌及び地下水について調査を行い、全地点で環境基準を達成していた。
- 水生生物調査については、最大値は芦ノ湖（オオクチバス）の 1.5pg-TEQ/g-wet、最小値は相模川（フナ類）の 0.73pg-TEQ/g-wet であった。
- 汚染状況確認調査及び未規制発生源周辺環境調査として、11 地点で水質及び底質の調査を行ったところ、前年度と同様、目久尻川に流入する水路 1 地点の水質が 1.4pg-TEQ/g-wet（年間平均）と環境基準を超過した。

4 今後の取組

- 今後も県域の環境調査を実施し、事業者、県民等への情報提供を行う。
- ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、今後も環境調査や事業所に対しての規制指導を継続して行っていく。
- 過去に汚染のあった地域等について、汚染状況確認調査等を継続して行っていく。

Ⅱ 化学物質環境モニタリング調査

神奈川県では県域における化学物質による汚染状況を把握するため、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（以下「化管法」といいます。）に基づく排出量と有害性を考慮して選定した化学物質の大気環境及び水域環境の調査を実施した。

1 大気環境調査

(1) 調査の概要

ア 目的

化学物質の排出状況と有害性を考慮して選定した物質による、県域における大気汚染の状況を把握するため、モニタリング調査を実施する。

イ 調査対象物質

化管法に基づく排出量の届出データ（横浜市、川崎市を除く県内の平成 16 年度）を基本に、有害性を考慮し、人の健康への影響に係る毒性係数（「神奈川県化学物質の安全性評価に関する指針」で定めている有害性ランクに基づく係数）を乗じた値が大きな物質から、排出実態や環境中での挙動などを勘案し、次の 12 物質を調査対象とした。

調 査 対 象 物 質	大気排出量（t） (a)	毒性係数 (b)	毒性換算排出量（t） (a)×(b)
トルエン	5,286	10	52,861
キシレン	4,184	10	41,838
エチルベンゼン	1,129	10	11,286
ジクロロメタン	734	100	73,390
p-ジクロロベンゼン	493	100	49,300
ホルムアルデヒド	345	1,000	344,620
ベンゼン	341	1,000	340,787
アセトアルデヒド※ ¹⁾	144	100	14,444
スチレン※ ¹⁾	140	100	14,039
1,3-ブタジエン※ ¹⁾	111	100	11,129
トリクロロエチレン	109	100	10,930
アクロレイン	18	1,000	17,605

※ 1) 平成 18 年度から有害性を考慮してスチレン、1,3-ブタジエン及びアセトアルデヒドの 3 物質を調査物質に加えた。その他の 9 物質については平成 17 年度から調査を実施した。

ウ 調査時期

回数	調査月	調査実施年月日
1 回 目	5 月	平成 19 年 5 月 15 日～16 日
2 回 目	8 月	平成 19 年 8 月 7 日～8 日
3 回 目	11 月	平成 19 年 11 月 6 日～7 日
4 回 目	2 月	平成 20 年 2 月 13 日～14 日

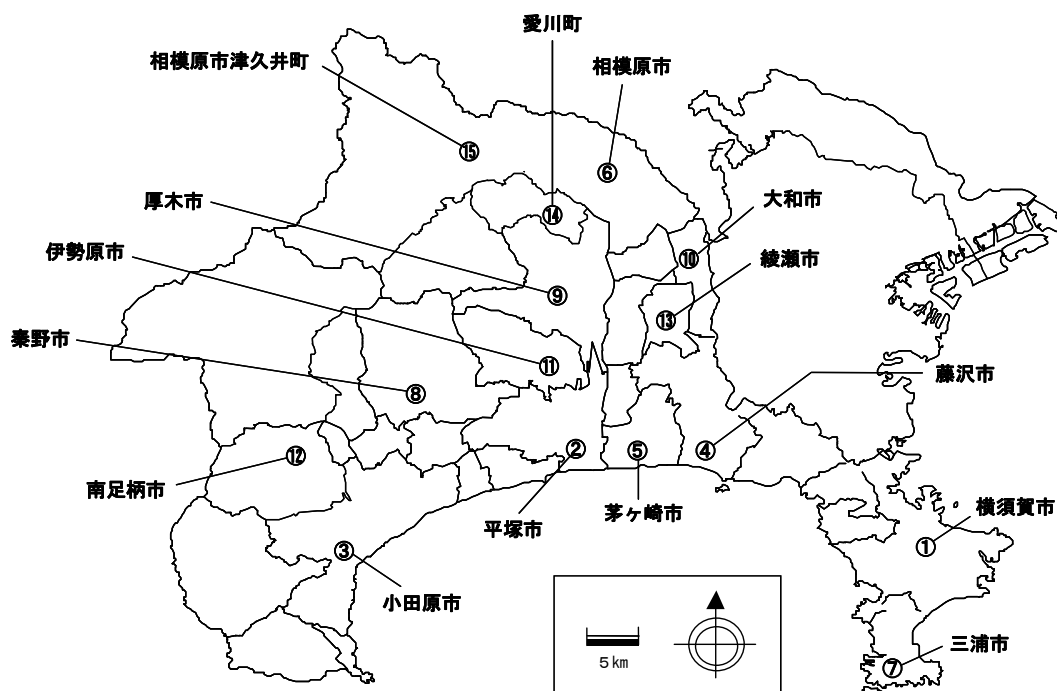
エ 調査地点

調査地点は、化管法に基づく化学物質の排出量が多い 12 地域（横浜市、川崎市を除く。）と県域全体の環境濃度を把握するため選定した 3 地域の合計 15 地点とした。

	市 町 名	調 査 地 点	所 在 地
①	横 須 賀 市	横須賀市衣笠行政センター	横須賀市公郷町 2-11
②	平 塚 市	平 塚 市 役 所	平 塚 市 浅 間 町 9-1
③	小 田 原 市	小 田 原 市 役 所	小田原市荻窪 300 番地
④	藤 沢 市	藤 沢 市 役 所	藤 沢 市 朝 日 町 1-1
⑤	茅 ヶ 崎 市	茅 ヶ 崎 市 役 所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-1-1
⑥	相 模 原 市	相 模 原 市 役 所	相模原市中央 2-11-15
⑦	三 浦 市	三 浦 市 役 所	三 浦 市 城 山 町 1-1
⑧	秦 野 市	秦 野 市 役 所	秦 野 市 桜 町 1-3-2
⑨	厚 木 市	厚 木 市 役 所	厚木市中町 3-17-17
⑩	大 和 市	大 和 市 役 所	大和市下鶴間 1-1-1
		深 見 台 交 差 点	大和市深見台 4-1
⑪	伊 勢 原 市	伊 勢 原 市 役 所	伊勢原市田中 348
⑫	南 足 柄 市	り ん ど う 会 館	南足柄市関本 403-2
⑬	綾 瀬 市	綾 瀬 市 役 所	綾 瀬 市 早 川 550
⑭	愛 川 町	愛 川 町 角 田	愛 川 町 角 田 104-4
⑮	相模原市津久井町	津 久 井 町 中 野	相模原市津久井町中野 633

※ 横須賀市、平塚市、藤沢市及び相模原市については、上記測定地点について一部データを提供いただいた。

調査地点位置図



(2) 調査結果

ア 結果の概要

調査地点ごとの調査対象物質の年間平均値は表 9 のとおりであった。

表 9 平成 19 年度測定結果(平均値)

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	対象物質 調査地点	トルエン	キシレン	エチル ベンゼン	p-ジクロロ ベンゼン	ジクロロ メタン	ベンゼン	1,3- ブタジエン	スチレン	トリクロロ エチレン	ホルム アルデヒド	アセト アルデヒド	アクロレイン
①	横須賀市衣笠 行政センター	5.7	2.7	2.0	1.2	0.9 ^{※2)}	1.7 ^{※2)}	0.23 ^{※2)}	<0.5	0.6 ^{※2)}	2.8 ^{※2)}	2.3 ^{※2)}	
②	平塚市役所	23	11	9.5	0.95	2.8 ^{※2)}	1.2 ^{※2)}	0.18 ^{※2)}	1.2	1.0 ^{※2)}	3.2 ^{※2)}	3.0 ^{※2)}	
③	小田原市役所	6.6	2.4	1.9	0.86	2.3	1.0	0.12	<0.5	0.6	2.1	2.0	<0.5
④	藤沢市役所	9.7	3.3	2.2	1.4	2.8 ^{※2)}	1.2 ^{※2)}	0.20 ^{※2)}	<0.5	0.7 ^{※2)}	2.8 ^{※2)}	2.6 ^{※2)}	
⑤	茅ヶ崎市役所	21	8.0	7.2	1.4	5.0	1.2	0.16	<0.5	1.0	1.3	1.6	<0.5
⑥	相模原市役所	11	3.5	2.6	0.90	3.2 ^{※2)}	1.3 ^{※2)}	0.23 ^{※2)}	0.6	1.2 ^{※2)}	2.8 ^{※2)}	2.6 ^{※2)}	
⑦	三浦市役所	3.9	1.5	1.1	0.73	0.6	0.9	0.05	<0.5	0.7			
⑧	秦野市役所	7.2	2.8	2.3	0.86	3.2	0.9	0.10	0.5	1.0	1.3	1.0	
⑨	厚木市役所	11	3.5	2.6	0.86	3.2	1.3	0.24	<0.5	0.9	2.6	2.9	<0.5
⑩	大和市役所 ^{※3)}	12	3.6	2.9	1.1	2.4	2.0	0.42	<0.5	0.8	2.5	2.4	<0.5
⑪	伊勢原市役所	8.6	2.8	2.2	0.58	1.5	1.1	0.12	<0.5	1.2			
⑫	南足柄市 りんどう会館	4.8	1.4	1.1	0.67	2.1	0.7	0.05	<0.5	0.7			
⑬	綾瀬市役所	13	5.5	4.9	0.84	2.2	1.1	0.14	<0.5	1.2			
⑭	愛川町角田	9.2	2.7	2.2	0.54	1.6	1.0	0.08	<0.5	1.1			
⑮	津久井町中野	6.6	1.7	1.3	0.69	1.9	0.9	0.08	<0.5	1.0			
	平均値	10	3.8	3.1	0.91	2.4	1.2	0.16	0.6	0.9	2.4	2.3	<0.5

※2) 横須賀市、平塚市、藤沢市及び相模原市による測定

※3) ベンゼン、1,3-ブタジエン、トリクロロエチレン、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒドについては、大和市深見台交差点を調査地点として測定を実施

[参考]

評価基準(評価の参考とした値)

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

基準値等	対象物質	トルエン	キシレン	エチル ベンゼン	p-ジクロロ ベンゼン	ジクロロ メタン	ベンゼン	1,3- ブタジエン	スチレン	トリクロロ エチレン	ホルム アルデヒド	アセト アルデヒド	アクロレイン
大気環境基準値 (1年平均値)						150	3			200			
室内濃度指針値		260	870	3800	240				220		100	48	
有害大気汚染物質 に係る指針値								2.5					
作業環境許容濃度													230

イ 平均値の経年変化

平成 17 年度からの対象物質ごとの経年変化は表 10 のとおりであった。

表 10 測定結果(平均値)の経年変化

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

年度 \ 対象物質	トルエン	キシレン	エチル ベンゼン	p-ジクロロ ベンゼン	ジクロロ メタン	ベンゼン	1,3- ブタジエン	スチレン	トリクロロ エチレン	ホルム アルデヒド	アセト アルデヒド	アクリレン
H17年度	9.0	2.2	2.5	1.1	2.9	1.2	—※4)	—※4)	0.5	3.4	—※4)	0.2
H18年度	17	5.7	4.3	0.81	3.1	1.9	0.24	0.6	1.5	3.0	3.1	<0.5
H19年度	10	3.8	3.1	0.91	2.4	1.2	0.16	0.6	0.9	2.4	2.3	<0.5
評価基準	260	870	3800	240	150	3	2.5	220	200	100	48	230
	①				②		③	①	②	①		④

①: 室内濃度指針値、②: 大気環境基準値(1年平均値)、
③: 有害大気汚染物質に係る指針値、④: 作業環境許容濃度

※4) 1,3-ブタジエン、スチレン、アセトアルデヒドについては、平成 18 年度から調査を開始した。

ウ 物質別の測定結果

物質ごとの測定結果は、次のとおりであった。

(7) トルエン

15 地点それぞれの平均値は $3.9\sim 23\mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、室内濃度指針値($260\mu\text{g}/\text{m}^3$)と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $10\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度($17\mu\text{g}/\text{m}^3$)と比べて低い値であった。

また、地点別では、すべての地点で前年度に比べて低い値であった。

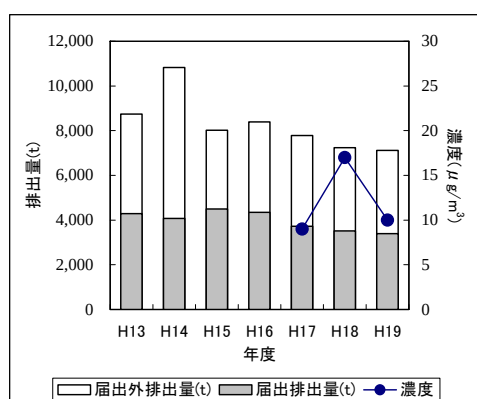


図 8 トルエンの排出量と大気中の濃度

排出量は、横浜市、川崎市を含む県全体の排出量
ただし、平成 19 年度排出量は、平成 18 年度実績から平成 19 年度削減目標量を差し引いた推計値とした(以下同じ)。

表11 トルエン 調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横浜貿易 衣笠行政センター	9.0	1.2	3.7	9.0	5.7	11	5.3
②	平塚市役所	33	2.9	29	28	23	44	12
③	小田原市役所	6.8	4.4	12	3.0	6.6	9.0	10
④	藤沢市役所	15	1.7	12	10	9.7	18	6.0
⑤	茅ヶ崎市役所	32	3.3	33	16	21	35	13
⑥	相模原市役所	10	8.2	20	4.2	11	14	15
⑦	三浦市役所	7.1	<0.5	4.5	3.5	3.9	6.7	6.6
⑧	秦野市役所	8.4	5.0	9.8	5.6	7.2	15	8.6
⑨	厚木市役所	9.1	6.3	21	6.6	11	16	5.7
⑩	大和市役所	14	8.5	19	6.6	12	22	15
⑪	伊勢原市役所	7.1	4.2	18	5.2	8.6	11	7.8
⑫	南足柄市 りんどう会館	6.0	2.3	9.7	1.3	4.8	7.1	4.4
⑬	綾瀬市役所	17	7.2	19	9.0	13	21	12
⑭	愛川町角田	7.8	4.9	21	3.3	9.2	9.5	7.5
⑮	津久井町中野	5.3	3.6	16	1.7	6.6	9.0	6.9
	平均値	13	4.3	17	7.5	10	17	9.0

※ 室内濃度指針値: $260\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(イ) キシレン

15 地点それぞれの平均値は $1.4 \sim 11 \mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、室内濃度指針値 ($870 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $3.8 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度 ($5.7 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

また、地点別では、小田原市役所を除く 14 地点で前年度と比べて低い値であった。

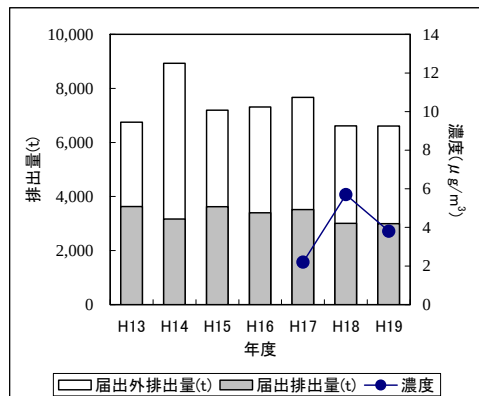


図9 キシレンの排出量と大気中の濃度

表12 キシレン 調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	4.1	0.6	1.1	5.1	2.7	4.0	1.4
②	平塚市役所	22	0.9	11	8.3	11	13	3.0
③	小田原市役所	3.7	1.3	3.6	0.8	2.4	2.4	2.7
④	藤沢市役所	5.9	0.7	3.6	2.9	3.3	5.4	2.3
⑤	茅ヶ崎市役所	13	1.4	9.7	8.1	8.0	11	2.5
⑥	相模原市役所	4.1	2.9	5.2	1.7	3.5	4.8	4.0
⑦	三浦市役所	3.1	<0.5	1.1	1.3	1.5	2.1	1.2
⑧	秦野市役所	4.8	0.8	2.8	2.7	2.8	7.8	2.8
⑨	厚木市役所	3.7	2.2	5.7	2.4	3.5	5.8	1.1
⑩	大和市役所	4.9	3.0	4.9	1.8	3.6	6.1	2.9
⑪	伊勢原市役所	2.7	1.4	5.5	1.8	2.8	5.0	1.8
⑫	南足柄市 りんどう会館	1.7	0.5	2.8	<0.5	1.4	2.0	0.7
⑬	綾瀬市役所	9.1	2.4	6.1	4.4	5.5	8.6	2.9
⑭	愛川町角田	2.9	1.5	4.9	1.5	2.7	3.3	1.6
⑮	津久井町中野	1.6	1.1	3.7	0.5	1.7	3.5	1.6
平均値		5.8	1.4	4.8	2.9	3.8	5.7	2.2

※ 室内濃度指針値: $870 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(ウ) エチルベンゼン

15 地点それぞれの平均値は $1.1 \sim 9.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、室内濃度指針値 ($3,800 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $3.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度 ($4.3 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

また、地点別では、小田原市役所及び茅ヶ崎市役所を除く 13 地点で前年度と比べて低い値であった。

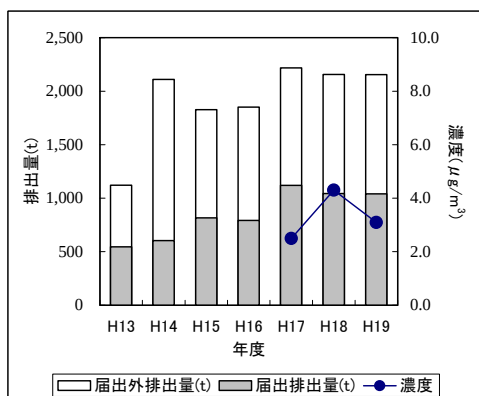


図10 エチルベンゼンの排出量と大気中の濃度

表13 エチルベンゼン調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	2.6	0.25	0.89	4.1	2.0	2.7	1.1
②	平塚市役所	20	0.52	10	7.5	9.5	11	3.5
③	小田原市役所	3.5	0.93	2.7	0.50	1.9	1.8	3.1
④	藤沢市役所	4.3	0.29	2.5	1.7	2.2	3.5	2.0
⑤	茅ヶ崎市役所	11	1.1	10	6.5	7.2	6.8	3.3
⑥	相模原市役所	3.1	2.2	3.9	1.1	2.6	3.6	4.7
⑦	三浦市役所	2.3	0.14	0.92	1.1	1.1	1.6	1.7
⑧	秦野市役所	4.3	0.72	2.0	2.0	2.3	6.7	3.2
⑨	厚木市役所	2.8	1.6	4.5	1.4	2.6	4.2	1.2
⑩	大和市役所	3.9	2.7	3.7	1.3	2.9	4.8	3.5
⑪	伊勢原市役所	2.1	0.92	4.5	1.1	2.2	3.8	1.9
⑫	南足柄市 りんどう会館	1.4	0.48	2.2	0.23	1.1	1.6	0.8
⑬	綾瀬市役所	8.7	2.3	5.0	3.6	4.9	7.4	4.0
⑭	愛川町角田	2.6	1.2	3.9	1.0	2.2	2.5	2.0
⑮	津久井町中野	1.3	0.87	2.9	0.27	1.3	2.5	1.8
平均値		4.9	1.1	4.0	2.2	3.1	4.3	2.5

※ 室内濃度指針値: $3800 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(イ) p-ジクロロベンゼン

15 地点それぞれの平均値は $0.54 \sim 1.4 \mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、室内濃度指針値 ($240 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $0.91 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度 ($0.8 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて高い値であった。

また、地点別では、横須賀市衣笠行政センター他 4 地点を除く 10 地点で前年度と比べて高い値であった。

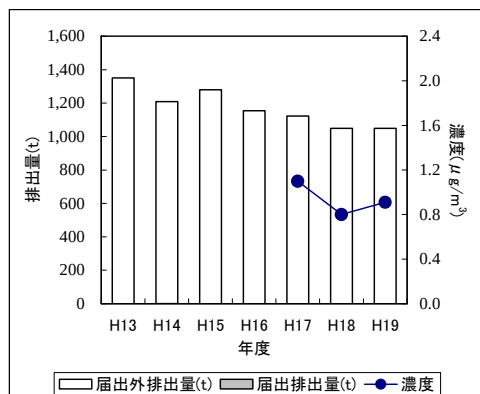


図11 p-ジクロロベンゼンの排出量と大気中の濃度

表14 p-ジクロロベンゼン 調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	3.6	0.84	0.31	0.16	1.2	1.2	1.4
②	平塚市役所	2.0	0.75	1.0	<0.05	0.95	0.85	1.0
③	小田原市役所	1.3	1.2	0.87	<0.05	0.86	0.58	1.0
④	藤沢市役所	3.5	0.77	1.1	0.17	1.4	1.5	1.7
⑤	茅ヶ崎市役所	2.4	0.71	2.3	0.26	1.4	1.3	1.0
⑥	相模原市役所	0.95	1.6	1.0	<0.05	0.90	0.57	1.4
⑦	三浦市役所	2.2	0.41	0.27	<0.05	0.73	0.46	0.7
⑧	秦野市役所	2.1	0.42	0.86	0.06	0.86	1.1	1.6
⑨	厚木市役所	1.4	1.1	0.89	<0.05	0.86	0.90	0.9
⑩	大和市役所	2.3	0.93	1.2	<0.05	1.1	0.86	1.1
⑪	伊勢原市役所	0.69	0.83	0.74	<0.05	0.58	0.53	0.7
⑫	南足柄市 りんどう会館	1.0	0.63	1.0	<0.05	0.67	0.53	1.1
⑬	綾瀬市役所	1.7	0.61	1.0	<0.05	0.84	0.89	0.9
⑭	愛川町角田	0.52	1.0	0.61	<0.05	0.54	0.35	0.8
⑮	津久井町中野	0.69	1.2	0.81	<0.05	0.69	0.46	0.9
	平均値	1.8	0.87	0.93	0.08	0.91	0.81	1.1

※ 室内濃度指針値: $240 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(オ) ジクロロメタン

15 地点それぞれの平均値は、 $0.6 \sim 5.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、大気環境基準値 ($150 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $2.4 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度 ($3.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$: 9 地点の平均値) と比べて低い値であった。

また、地点別では、平成 18 年度に調査実績のある 9 地点は、茅ヶ崎市役所、相模原市役所及び伊勢原市役所を除く 6 地点で平成 18 年度と比べて低い値であった。それ以外の地点では、小田原市役所及び厚木市役所を除く 4 地点で平成 17 年度と比べて低い値であった。

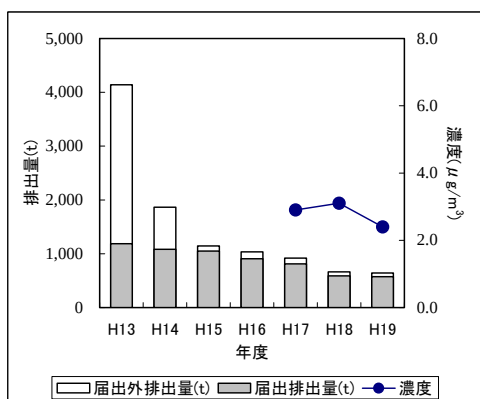


図12 ジクロロメタンの排出量と大気中の濃度

表15 ジクロロメタン 調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	1.1	0.1	1.7	0.8	0.9	—	4.3
②	平塚市役所	3.4	0.4	4.8	2.5	2.8	—	3.1
③	小田原市役所	2.0	1.2	4.2	1.8	2.3	—	1.7
④	藤沢市役所	3.0	0.3	3.7	4.1	2.8	4.7	1.4
⑤	茅ヶ崎市役所	5.5	0.9	11	2.6	5.0	3.2	3.1
⑥	相模原市役所	2.6	3.1	5.6	1.4	3.2	3.0	2.3
⑦	三浦市役所	0.8	0.2	0.8	0.5	0.6	1.2	0.7
⑧	秦野市役所	5.3	0.4	2.6	4.3	3.2	—	10
⑨	厚木市役所	1.9	1.7	7.4	1.9	3.2	—	2.5
⑩	大和市 深見台交差点	2.3	1.3	4.6	1.3	2.4	—	2.5
⑪	伊勢原市役所	0.9	0.9	3.4	0.8	1.5	1.5	2.0
⑫	南足柄市 りんどう会館	2.5	1.6	2.9	1.3	2.1	3.3	3.6
⑬	綾瀬市役所	2.6	2.5	2.6	1.2	2.2	3.5	2.5
⑭	愛川町角田	1.0	1.2	3.8	0.5	1.6	4.7	2.0
⑮	津久井町中野	1.5	2.0	3.3	0.8	1.9	2.9	2.5
	平均値	2.4	1.2	4.2	1.7	2.4	3.1	2.9

※ 大気環境基準: $150 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(カ) ベンゼン

15 地点それぞれの平均値は、 $0.7 \sim 2.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、大気環境基準値 ($3 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $1.2 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度 ($1.9 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

また、地点別では、すべての地点で前年度に比べて低い値であった。

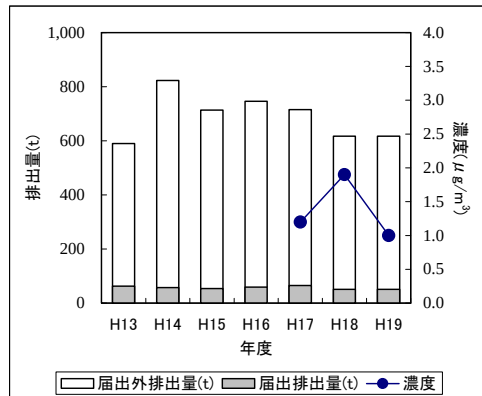


図13 ベンゼンの排出量と大気中の濃度

表16 ベンゼン 調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	1.4	0.3	3.1	1.8	1.7	2.1	1.2
②	平塚市役所	1.2	0.3	1.8	1.5	1.2	1.9	1.1
③	小田原市役所	1.0	0.4	1.5	0.9	1.0	1.3	1.6
④	藤沢市役所	1.3	0.4	1.6	1.4	1.2	3.2	1.1
⑤	茅ヶ崎市役所	1.2	<0.3	1.7	1.6	1.2	1.9	1.0
⑥	相模原市役所	1.0	1.0	2.2	1.0	1.3	2.2	1.4
⑦	三浦市役所	1.1	<0.3	1.1	0.9	0.9	1.5	1.1
⑧	秦野市役所	1.0	<0.3	1.1	1.3	0.9	2.0	1.3
⑨	厚木市役所	1.1	0.7	2.0	1.4	1.3	1.7	1.2
⑩	大和市 深見台交差点	2.0	1.9	2.4	1.7	2.0	2.5	1.5
⑪	伊勢原市役所	1.0	0.4	1.5	1.3	1.1	1.8	1.4
⑫	南足柄市 りんどう会館	0.8	<0.3	1.1	0.7	0.7	1.1	0.8
⑬	綾瀬市役所	1.2	0.3	1.5	1.4	1.1	2.0	1.2
⑭	愛川町角田	0.9	0.5	1.6	0.9	1.0	1.5	1.1
⑮	津久井町中野	0.9	0.5	1.4	0.9	0.9	1.7	1.3
平均値		1.1	0.5	1.7	1.2	1.2	1.9	1.2

※ 大気環境基準: $3 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(キ) 1,3-ブタジエン

15 地点それぞれの平均値は、 $0.05 \sim 0.42 \mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、有害大気汚染物質に係る指針値 ($2.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $0.16 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度 ($0.24 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

また、地点別では、小田原市役所及び厚木市役所を除く 13 地点で前年度と比べて低い値であった。

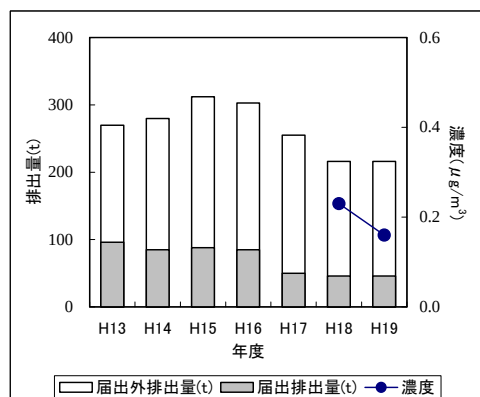


図14 1,3-ブタジエンの排出量と大気中の濃度

表17 1,3-ブタジエン調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	0.19	0.07	0.36	0.28	0.23	0.24	0.24
②	平塚市役所	0.21	0.08	0.21	0.22	0.18	0.29	0.29
③	小田原市役所	<0.03	0.08	0.25	0.11	0.12	0.07	0.07
④	藤沢市役所	0.27	0.06	0.26	0.22	0.20	0.38	0.38
⑤	茅ヶ崎市役所	0.14	0.04	0.25	0.23	0.16	0.23	0.23
⑥	相模原市役所	0.17	0.15	0.44	0.15	0.23	0.31	0.31
⑦	三浦市役所	0.05	<0.03	0.06	0.06	0.05	0.14	0.14
⑧	秦野市役所	0.09	0.03	0.11	0.15	0.10	0.21	0.21
⑨	厚木市役所	0.21	0.13	0.33	0.28	0.24	0.23	0.23
⑩	大和市 深見台交差点	0.43	0.39	0.47	0.41	0.42	0.43	0.43
⑪	伊勢原市役所	0.08	0.07	0.12	0.20	0.12	0.25	0.25
⑫	南足柄市 りんどう会館	<0.03	0.03	0.11	0.03	0.05	0.10	0.10
⑬	綾瀬市役所	0.13	0.05	0.19	0.20	0.14	0.28	0.28
⑭	愛川町角田	0.06	0.07	0.14	0.04	0.08	0.18	0.18
⑮	津久井町中野	0.06	0.06	0.13	0.05	0.08	0.20	0.20
平均値		0.14	0.09	0.23	0.18	0.16	0.24	0.24

※ 有害大気汚染物質に係る指針値: $2.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(カ) スチレン

15 地点の平均値のうち最も高かったのは平塚市で $1.2 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、室内濃度指針値 ($220 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

また、地点別では、相模原市役所で前年度と比べて高い値であった。

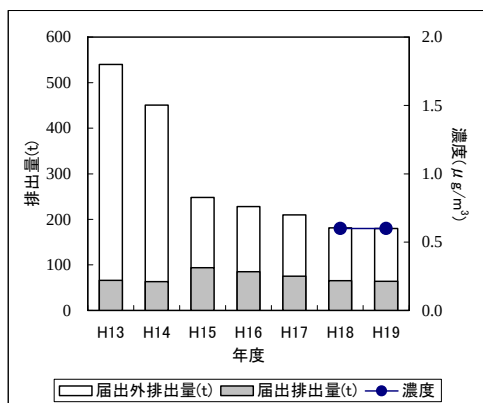


図15 スチレンの排出量と大気中の濃度

表18 スチレン調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	
②	平塚市役所	2.4	<0.5	0.6	1.1	1.2	1.7	
③	小田原市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	
④	藤沢市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.6	
⑤	茅ヶ崎市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.5	
⑥	相模原市役所	<0.5	<0.5	0.8	<0.5	0.6	0.5	
⑦	三浦市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	
⑧	秦野市役所	0.6	<0.5	<0.5	<0.5	0.5	0.7	
⑨	厚木市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.6	
⑩	大和市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.6	
⑪	伊勢原市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	
⑫	南足柄市 りんどう会館	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	
⑬	綾瀬市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.5	
⑭	愛川町角田	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	
⑮	津久井町中野	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	
	平均値	0.6	<0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	

※ 室内濃度指針値: $220 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(ケ) トリクロロエチレン

15 地点それぞれの平均値は、 $0.6 \sim 1.2 \mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、大気環境基準値 ($200 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $0.9 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度 ($1.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

また、地点別では、横須賀市衣笠行政センター、小田原市役所及び厚木市役所を除く 12 地点で前年度と比べて低い値であった。

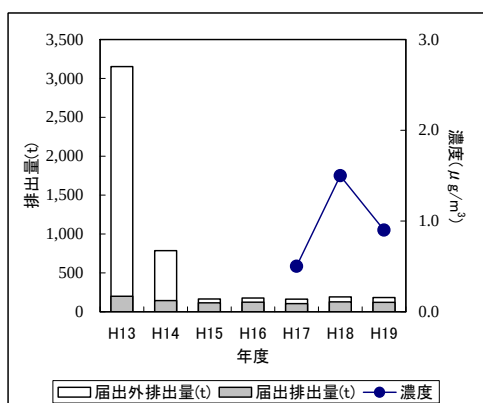


図16 トリクロロエチレンの排出量と大気中の濃度

表19 トリクロロエチレン調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	0.5	<0.1	1.3	0.3	0.6	0.5	0.2
②	平塚市役所	1.2	<0.1	2.1	0.4	1.0	1.3	0.6
③	小田原市役所	0.5	0.1	1.7	0.2	0.6	0.3	0.6
④	藤沢市役所	1.0	<0.1	1.4	0.2	0.7	0.9	0.3
⑤	茅ヶ崎市役所	1.2	<0.1	2.2	0.6	1.0	1.6	0.4
⑥	相模原市役所	1.0	0.7	2.8	0.3	1.2	1.6	1.0
⑦	三浦市役所	0.8	<0.1	1.5	0.2	0.7	4.9	0.2
⑧	秦野市役所	0.9	1.6	1.3	0.1	1.0	2.2	0.2
⑨	厚木市役所	0.7	0.3	2.3	0.4	0.9	0.7	0.2
⑩	大和市 深見台交差点	0.8	0.2	2.0	0.3	0.8	0.9	0.6
⑪	伊勢原市役所	1.8	0.6	2.3	0.2	1.2	2.6	0.3
⑫	南足柄市 りんどう会館	0.7	0.6	1.4	<0.1	0.7	1.2	0.2
⑬	綾瀬市役所	2.3	0.5	1.6	0.5	1.2	1.5	0.7
⑭	愛川町角田	1.2	0.5	2.6	0.2	1.1	1.3	1.1
⑮	津久井町中野	1.5	0.5	2.0	0.1	1.0	1.3	0.6
	平均値	1.1	0.4	1.9	0.3	0.9	1.5	0.5

※ 大気環境基準値: $200 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(コ) ホルムアルデヒド

表 12 のとおり横須賀市衣笠行政センター他 8 地点で調査を行った。9 地点それぞれの平均値は、 $1.3 \sim 3.2 \mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、室内濃度指針値 ($100 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $2.4 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度 ($3.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

また、地点別では、平塚市役所、藤沢市役所及び相模原市役所を除く 6 地点で前年度と比べて低い値であった。

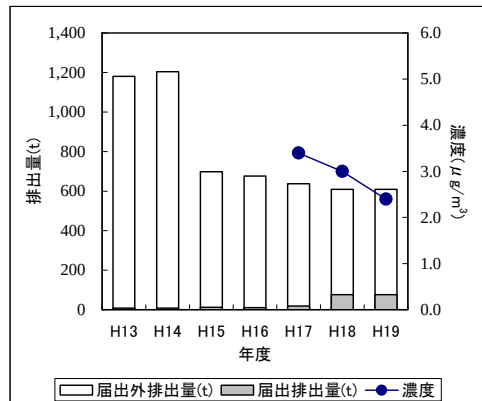


図17 ホルムアルデヒドの排出量と大気中の濃度

表20 ホルムアルデヒド調査結果 (単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	2.9	2.7	3.0	2.7	2.8	3.7	4.0
②	平塚市役所	2.9	3.6	3.5	2.7	3.2	3.1	3.5
③	小田原市役所	2.1	3.1	2.2	0.9	2.1	3.2	4.0
④	藤沢市役所	3.0	2.8	2.9	2.3	2.8	2.5	2.6
⑤	茅ヶ崎市役所	1.1	1.1	2.4	<0.8	1.3	2.1	2.9
⑥	相模原市役所	2.1	4.8	2.9	1.2	2.8	2.8	4.1
⑦	三浦市役所							
⑧	秦野市役所	<0.8	2.7	0.9	0.8	1.3	2.9	
⑨	厚木市役所	2.0	4.0	2.8	1.7	2.6	3.4	2.8
⑩	大和市 深見台交差点	3.1	1.8	2.8	2.2	2.5	3.1	3.1
⑪	伊勢原市役所							
⑫	南足柄市 りんどう会館							
⑬	綾瀬市役所							
⑭	愛川町角田							
⑮	津久井町中野							
平均値		2.2	3.0	2.6	1.7	2.4	3.0	3.4

※ 室内濃度指針値: $100 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(サ) アセトアルデヒド

表 13 のとおり横須賀市衣笠行政センター他 8 地点で調査を行った。9 地点それぞれの平均値は、 $1.0 \sim 3.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、室内濃度指針値 ($48 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

全地点の平均値は $2.3 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、平成 18 年度 ($3.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べて低い値であった。

また、地点別では、藤沢市役所及び相模原市役所を除く 7 地点で前年度と比べて低い値であった

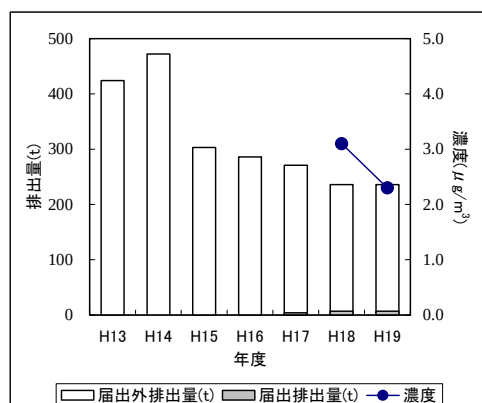


図18 アセトアルデヒドの排出量と大気中の濃度

表21 アセトアルデヒド調査結果 (単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター	3.0	1.0	2.9	2.4	2.3	3.1	
②	平塚市役所	2.6	3.2	3.2	3.0	3.0	3.6	
③	小田原市役所	2.2	1.7	2.6	1.4	2.0	3.1	
④	藤沢市役所	2.7	2.2	3.1	2.3	2.6	2.4	
⑤	茅ヶ崎市役所	1.5	0.6	3.2	1.0	1.6	2.3	
⑥	相模原市役所	2.0	3.2	3.6	1.4	2.6	2.3	
⑦	三浦市役所							
⑧	秦野市役所	0.6	0.9	1.5	0.8	1.0	3.7	
⑨	厚木市役所	2.5	3.1	4.0	2.0	2.9	3.7	
⑩	大和市 深見台交差点	2.9	1.5	3.2	2.1	2.4	3.4	
⑪	伊勢原市役所							
⑫	南足柄市 りんどう会館							
⑬	綾瀬市役所							
⑭	愛川町角田							
⑮	津久井町中野							
平均値		2.2	1.9	3.0	1.8	2.3	3.1	

※ 室内濃度指針値: $48 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(2) アクロレイン

表 14 のとおり小田原市役所他 3 地点で調査を行った。4 地点すべてで定量限界 ($0.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$) 以下であった。

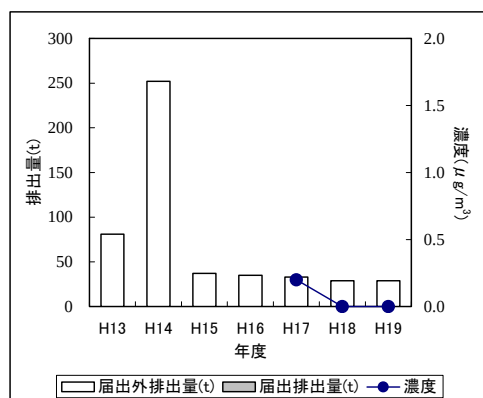


図19 アクロレインの排出量と大気中の濃度

表22 アクロレイン調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

番号	調査地点	調査結果				19年度 平均値	18年度 平均値	17年度 平均値
		5月	8月	11月	2月			
①	横須賀市 衣笠行政センター							
②	平塚市役所							
③	小田原市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.2
④	藤沢市役所							
⑤	茅ヶ崎市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.1
⑥	相模原市役所							
⑦	三浦市役所							
⑧	秦野市役所							
⑨	厚木市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.3
⑩	大和市役所	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.2
⑪	伊勢原市役所							
⑫	南足柄市 りんどう会館							
⑬	綾瀬市役所							
⑭	愛川町角田							
⑮	津久井町中野							
平均値		<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.2

※ 作業環境許容濃度: $230 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

(3) まとめ

- 調査を行った全ての地点でいずれの物質も評価基準値を下回っていた。
- 前年度(平成 18 年度)との比較では、p-ジクロロベンゼン、スチレン及びアクロレインの 3 物質を除いた 9 物質で年間平均値が低かった。

(4) 今後の取組

- 化管法及び条例に基づき、事業者が実施する化学物質の適正な管理、排出量の削減及び県民への情報提供などの自主的な取組の促進を支援していく。
- 排出量と有害性を考慮して選定した物質について調査を継続して行っていく。
- 調査結果を事業者、県民に情報提供し、化学物質の削減対策に役立てる。

2 水域環境調査

(1) 調査の概要

ア 目的

化学物質による水生生物等への影響を把握する観点から、水域へ排出され生態系への影響が懸念される物質等の環境濃度について実態を把握するため調査を実施する。

イ 調査対象物質

化管法に基づき事業者から提出されたデータを基に、排出量と有害性を考慮し、溶剤、可塑剤、界面活性剤また水生生物に対し内分泌かく乱作用があるとされる物質等 15 物質を選定した（表 23）。

表 23 調査対象物質

NO	PRTR No.	調査対象物質	調査項目		
			水質 ¹⁾	底質 ²⁾	水生生物 ³⁾
1	24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸 (LAS)	○	—	—
2	307	ポリオキシエチレンアルキルエーテル (C=12~15)	○	—	—
3	63	キシレン	○	—	—
4	251	ビス (水素化牛脂) ジメチルアンモニウムクロリド	○	—	—
5	176	有機スズ化合物 (トリブチルスズ)	○	○	○
6	176	有機スズ化合物 (トリフェニルスズ)	○	○	○
7	272	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (DEHP)	○	○	○
8	309	ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル	○	—	—
9	308	ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル	○	—	—
10	270	フタル酸ジ-n-ブチル	○	○	○
11	113	1,4-ジオキサン	○	—	—
12	59	4-t-オクチルフェノール	●	○	○
13	242	ノニルフェノール	●	○	○
14	29	ビスフェノールA	●	○	○
15		17β-エストラジオール	●	○	—

1) 水質調査では、○の物質は10地点で、●の物質については引地川（富士見橋）、相模川（寒川取水堰）、小出川（宮の下橋）、森戸川（親木橋）及び酒匂川（飯泉取水堰）の5地点で調査を実施する。

2) 底質調査は、引地川（富士見橋）、相模川（寒川取水堰）、小出川（宮の下橋）、森戸川（親木橋）及び酒匂川（飯泉取水堰）の5地点で調査を実施する。

3) 水生生物調査は、小出川（宮ノ下橋）及び森戸川（親木橋）の2地点で調査を実施する。

ウ 調査地点

調査地点は、図 20 に示す①～⑩の 10 地点とした。

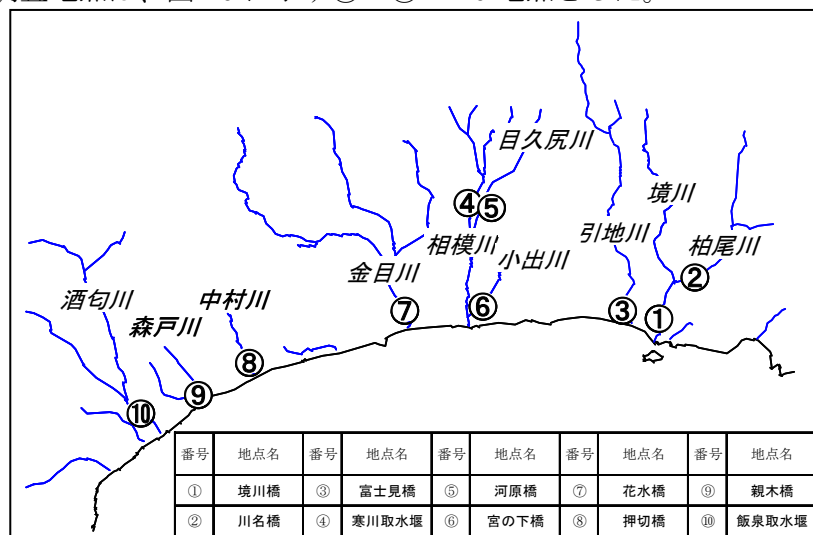


図 20 調査地点図

エ 調査時期

水質については、夏季と冬季の2回／年、底質及び水生生物については冬季の1回／年調査を実施した。

(2) 調査結果

ア 水質調査

- ・ 水質調査（夏季・冬季）の結果、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸等 6 物質が検出された。特に、17β-エストラジオールは 5 地点中 5 地点、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸は 10 地点中 9 地点、1,4-ジオキサンは 10 地点中 8 地点で検出された。
- ・ トリブチルスズは、森戸川（親木橋）の 1 地点で、夏季に 0.02 μg/L、冬季に 0.012 μg/L 検出された。
- ・ ノニルフェノールについては、小出川（宮の下橋）の 1 地点で、冬季のみ 0.3 μg/L 検出された。

表 24 水質調査結果

（単位：μg/L）

NO	PRTR No.	調査対象物質	境川 境川橋		柏尾川 川名橋		引地川 富士見橋		相模川 寒川取水堰		目久尻川 河原橋		小出川 宮の下橋	
			7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月
1	24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸 (LAS)	ND	1.4	ND	0.6	ND	11	ND	2.2	ND	1.2	ND	9.2
2	307	ポリオキシエチレンアルキルエーテル (C=12~15)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
3	63	キシレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
4	251	ビス（水素化牛脂）ジメチルアンモニウムクロリド	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
5	176	有機スズ化合物（トリブチルスズ）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
6	176	有機スズ化合物（トリフェニルスズ）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
7	272	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (DEHP)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
8	309	ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
9	308	ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
10	270	フタル酸ジ-n-ブチル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
11	113	1,4-ジオキサン	0.9	0.3	0.4	0.2	1.2	1.2	ND	ND	0.6	0.7	0.5	0.5
12	59	4-tert-オクチルフェノール	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND
13	242	ノニルフェノール	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	0.3
14	29	ビスフェノールA	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND
15		17β-エストラジオール	—	—	—	—	0.0006	0.0008	0.0003	0.0002	—	—	0.0006	0.0014

NO	PRTR No.	調査対象物質	金目川 花水橋		中村川 押切橋		森戸川 親木橋		酒匂川 飯泉取水堰		検出 下限値	県 調査結果	全国 調査結果
			7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月			
1	24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸 (LAS)	ND	ND	ND	0.6	ND	14	ND	4.7	0.5	—	—
2	307	ポリオキシエチレンアルキルエーテル (C=12~15)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	—	—
3	63	キシレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	—	—
4	251	ビス（水素化牛脂）ジメチルアンモニウムクロリド	ND	ND	0.2	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	—	—
5	176	有機スズ化合物（トリブチルスズ）	ND	ND	ND	ND	0.020	0.012	ND	ND	0.001	ND~0.20	ND~0.09
6	176	有機スズ化合物（トリフェニルスズ）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	ND~0.01	ND~0.004
7	272	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (DEHP)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	ND~9.4	ND~9.9
8	309	ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	—	—
9	308	ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	—	—
10	270	フタル酸ジ-n-ブチル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	ND~0.91	ND~2.3
11	113	1,4-ジオキサン	0.2	0.3	ND	ND	ND	0.1	ND	0.1	0.1	ND~2.6	ND~160
12	59	4-tert-オクチルフェノール	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	0.01	ND~0.31	ND~13
13	242	ノニルフェノール	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	0.1	ND~1.1	ND~21
14	29	ビスフェノールA	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	0.01	ND~0.79	ND~1.7
15		17β-エストラジオール	—	—	—	—	0.0003	0.0008	0.0001	0.0001	0.0001	ND~0.2	ND~0.041

※ NDは、検出下限値未満の値であることを示す。

【参考】

平成 18 年度水質調査結果

(単位：μg/L)

NO	PRTR No.	化学物質名称	境川		柏尾川		引地川		相模川		目久尻川		小出川	
			境川橋		川名橋		富士見橋		寒川取水堰		河原橋		宮の下橋	
			7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月
1	24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸 (LAS)	3.2	0.8	1.6	2.1	1.4	2.5	ND	ND	3.2	1.2	9.6	5.3
2	307	ポリオキシエチレンアルキルエーテル (C=12~15)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
3	63	キシレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
4	251	ビス (水素化牛脂) ジメチルアンモニウムクロリド	ND	ND	ND	0.3	ND	0.7	ND	0.2	0.2	0.7	ND	0.5
5	176	有機スズ化合物 (トリブチルスズ)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
6	176	有機スズ化合物 (トリフェニルスズ)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
7	272	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (DEHP)	ND	ND	ND	ND	ND	0.7	ND	ND	ND	ND	0.7	0.7
8	309	ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル	5	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
9	308	ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	ND
10	270	フタル酸ジ-n-ブチル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
11	113	1,4-ジオキサン	0.8	0.8	0.4	0.4	1.3	1.4	ND	ND	0.6	0.9	0.5	1.3
12	59	4-tert-オクチルフェノール	ND	ND	—	—	—	—	ND	ND	—	—	—	—
13	242	ノニルフェノール	0.1	ND	—	—	—	—	ND	ND	—	—	—	—
14	29	ビスフェノールA	ND	ND	—	—	—	—	ND	ND	—	—	—	—
15		17β-エストラジオール	0.0043	0.0032	—	—	—	—	0.0003	0.0022	—	—	—	—

NO	PRTR No.	化学物質名称	金目川		中村川		森戸川		酒匂川		検出 下限値
			花水橋		押切橋		親木橋		飯泉取水堰		
			7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	
1	24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸 (LAS)	10	2.6	14	15	40	40	6.6	ND	0.5
2	307	ポリオキシエチレンアルキルエーテル (C=12～15)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1
3	63	キシレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2
4	251	ビス (水素化牛脂) ジメチルアンモニウムクロリド	0.4	0.3	ND	0.4	0.6	1.8	ND	0.3	0.2
5	176	有機スズ化合物 (トリブチルスズ)	ND	ND	ND	ND	0.006	0.065	ND	ND	0.001
6	176	有機スズ化合物 (トリフェニルスズ)	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	ND	ND	0.001
7	272	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (DEHP)	ND	ND	ND	0.7	ND	0.8	ND	ND	0.5
8	309	ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1
9	308	ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル	ND	ND	ND	ND	2	2	ND	ND	1
10	270	フタル酸ジ-n-ブチル	0.5	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5
11	113	1,4-ジオキサン	ND	0.5	ND	0.1	ND	0.2	ND	ND	0.1
12	59	4-tert-オクチルフェノール	ND	ND	0.03	ND	—	—	ND	ND	0.01
13	242	ノニルフェノール	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	0.1
14	29	ビスフェノールA	ND	ND	0.01	ND	—	—	0.01	ND	0.01
15		17β-エストラジオール	0.0006	0.0009	0.0008	0.0012	—	—	0.0002	0.0002	0.0001

※ NDは、検出下限値未満の値であることを示す。

イ 底質調査

- ・ トリブチルスズが森戸川（親木橋）で 66 μg/kg-dry 検出された。
- ・ フタル酸ジ-2-エチルヘキシルが引地川（富士見橋）で 7,300 μg/kg-dry、小出川（宮の下橋）で 3,300 μg/kg-dry 検出された。

表 25 底質調査結果

(単位：μg/kg-dry)

NO	PRTR No.	調査対象物質	引地川 富士見橋	相模川 寒川取水堰	小出川 宮の下橋	森戸川 親木橋	酒匂川 飯泉取水堰	検出 下限値	県 調査結果	全国 調査結果
5	176	有機スズ化合物 (トリブチルスズ)	ND	ND	1	66	ND	1	ND~49	ND~200
6	176	有機スズ化合物 (トリフェニルスズ)	ND	ND	ND	1	ND	1	ND~29	ND~16
7	272	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	7,300	26	3,300	78	ND	25	ND~27,000	ND~210,000
10	270	フタル酸ジ-n-ブチル	ND	ND	ND	ND	ND	25	ND~3,600	ND~2,000
12	59	4-tert-オクチルフェノール	ND	ND	ND	ND	ND	5	ND~35	ND~45
13	242	ノニルフェノール	ND	ND	ND	ND	ND	50	ND~880	ND~4,900
14	29	ビスフェノールA	ND	ND	ND	ND	ND	5	ND~240	ND~67
15		17β-エストラジオール	0.03	ND	0.06	0.01	ND	0.01	ND~2.9	ND~16

※ NDは、検出下限値未満の値であることを示す。

【参考】

平成 18 年度底質調査結果

(単位: μ g/kg-dry)

NO	PRTR No.	調査対象物質	相模川 寒川取水堰	酒匂川 飯泉取水堰	検出 下限値
5	176	有機スズ化合物 (トリブチルスズ)	ND	ND	1
6	176	有機スズ化合物 (トリフェニルスズ)	ND	ND	1
7	272	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	350	29	25
10	270	フタル酸ジ-n-ブチル	ND	ND	25
12	59	4-tert-オクチルフェノール	ND	ND	5
13	242	ノニルフェノール	ND	ND	50
14	29	ビスフェノールA	ND	ND	5
15		17 β -エストラジオール	0.07	0.02	0.01

※ NDは、検出下限値未満の値であることを示す。

注) 平成 18 年度も同一地点で調査を実施した相模川 (寒川取水堰) 及び酒匂川 (飯泉取水堰) の結果を参考として掲載した。

ウ 水生生物調査

- 調査した 7 物質のうち森戸川 (親木橋) のコイでトリブチルスズが 520μ g/kg-wet、また、トリフェニルスズが 18μ g/kg-wet 検出された。

表 26 水生生物調査結果

(単位: μ g/kg-wet)

NO	PRTR No.	調査対象物質	小出川 宮の下橋	森戸川 親木橋	検出 下限値	県 調査結果	全国 調査結果
5	176	有機スズ化合物 (トリブチルスズ)	19	520	1	ND~450	ND~120
6	176	有機スズ化合物 (トリフェニルスズ)	2	18	1	ND~14	ND~210
7	272	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	ND	ND	25	ND~350	ND~190
10	270	フタル酸ジ-n-ブチル	ND	ND	25	ND~340	ND
12	59	4-tert-オクチルフェノール	ND	ND	5	ND	ND~30
13	242	ノニルフェノール	ND	ND	50	ND	ND~780
14	29	ビスフェノールA	ND	ND	5	ND~30	ND~15
魚種			コイ	コイ			

※ NDは、検出下限値未満の値であることを示す。

(3) まとめ

- 水質調査 (夏季・冬季) の結果、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸等 6 物質が検出された。特に、17 β -エストラジオールは 5 地点中 5 地点、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸は 10 地点中 9 地点、1,4-ジオキサンは 10 地点中 8 地点で検出された。

また、水質要監視項目指針値などの評価基準値のある物質の最大値は、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸が 14μ g/L、ビス (水素化牛脂) ジメチルアンモニウムクロリドが 0.2μ g/L、1,4-ジオキサンが 1.2μ g/L であったが、いずれも評価基準を下回っていた。

- 底質調査の結果、4 物質が検出され、各物質の最大値は、トリブチルスズ及びトリフェニルスズが森戸川 (親木橋) において 66μ g/kg-dry (県調査の過去最大値 49μ g/kg-dry を超過) 及び 1μ g/kg-dry、フタル酸ジ-2-エチルヘキシルが引地川 (富士見橋) において $7,300 \mu$ g/kg-dry、17 β エストラジオールが小出川宮の下橋

において $0.06 \mu\text{g/kg-dry}$ であった。

- 水生生物調査の結果、トリブチルスズ及びトリフェニルスズの 2 物質が検出され、最大値は森戸川（親木橋）のトリブチルスズ $520 \mu\text{g/kg-wet}$ （県調査の過去最大値 $450 \mu\text{g/kg-dry}$ を超過）、トリフェニルスズ $18 \mu\text{g/kg-wet}$ （県調査の過去最大値 $14 \mu\text{g/kg-dry}$ を超過）であった。

(4) 今後の取組

- 今後も水域環境の調査を実施し、事業者、県民等への情報提供を行う。
- 化管法及び条例に基づき、事業者が実施する化学物質の適正な管理、排出量の削減及び県民への情報提供などの自主的な取組の促進を支援していく。
- 水域へ排出され生態系への影響が懸念される物質について調査を継続して行っていく。
- 底質や水生生物のトリブチルスズなど、過去の調査結果と比較して高い結果が得られた地点については、今後もその状況を把握していく。

参考資料1 平成19年度神奈川県内におけるダイオキシン類測定結果

大 気

単位:pg-TEQ/m³

実施者	調査地点	5月	8月	11月	1-2月	年平均
横浜市	1 鶴見区生麦小学校	0.027	0.036	0.064	0.059	0.047
	2 西区平沼小学校	0.027	0.033	0.058	0.045	0.041
	3 中区本牧	0.020	0.021	0.051	0.048	0.035
	4 旭区鶴ヶ峯小学校	0.024	0.036	0.053	0.055	0.042
	5 港北区総合庁舎	0.030	0.042	0.054	0.052	0.045
	6 青葉区総合庁舎	0.024	0.026	0.048	0.048	0.037
	7 戸塚区汲沢小学校	0.022	0.026	0.049	0.043	0.035
	8 栄区上郷小学校	0.013	0.019	0.040	0.036	0.027
	9 瀬谷区南瀬谷小学校	0.026	0.031	0.048	0.040	0.036

横浜市HPより

実施者	調査地点	5月	8月	11月	1-2月	年平均
川崎市	1 大師測定局	0.041	0.064	0.059	0.050	0.054
	2 中原測定局	0.034	0.032	0.054	0.060	0.045
	3 生田浄水場	0.027	0.022	0.043	0.059	0.038

実施者	調査地点	5月	8月	11月	1-2月	年平均
横須賀市	1 追浜行政センター分館	0.013	0.018	0.045	0.039	0.029
	2 市職員厚生会館	0.016	0.017	0.048	0.042	0.031
	3 衣笠行政センター	0.018	0.018	0.041	0.045	0.031
	4 久里浜行政センター	0.012	0.014	0.030	0.037	0.023
	5 西行政センター	0.011	0.017	0.037	0.032	0.024

実施者	調査地点	5月	8月	11月	1-2月	年平均
相模原市	1 相模原市役所	0.029	0.032	0.033	0.032	0.032
	2 相模台中学校	0.029	0.037	0.049	0.043	0.040
	3 旭小学校	0.039	0.036	0.040	0.036	0.038
	4 田名こどもセンター	0.033	0.038	0.039	0.041	0.038
	5 津久井総合事務所	0.024	0.057	0.030	0.033	0.036
	6 相模原北公園	0.031	0.038	0.070	0.036	0.044
	7 相模田名高校	0.059	0.050	0.047	0.031	0.047
	8 田名南ふれあい広場	0.030	0.039	0.040	0.037	0.037
	9 しおだせせらぎ公園	0.029	0.063	0.076	0.056	0.056
	10 相武台高校	0.039	0.045	0.12	0.089	0.073
	11 麻溝台公園	0.050	0.052	0.084	0.081	0.067
	12 青山水源事務所	0.018	0.032	0.016	0.028	0.024

実施者	調査地点	5月	8月	11月	2月	年平均
平塚市	1 平塚市立神田小学校	0.023	0.035	0.058	0.059	0.044
	2 平塚市立岡崎小学校	0.027	0.027	0.048	0.040	0.036

実施者	調査地点	5月	8月	11月	1-2月	年平均
小田原市	1 小田原市消防本部	0.021	0.024	0.031	0.039	0.029

実施者	調査地点	5月	8月	11月	2月	年平均
大和市	1 桜丘学習センター	0.022	0.030	0.044	0.044	0.035

実施者	調査地点	6月	8月	11月	2月	年平均
南足柄市	1 南足柄市清掃工場	0.018	0.034	0.030	0.026	0.027
	2 福沢小学校屋上	0.016	0.043	0.030	0.032	0.030
	3 沼田消防団詰所横防災倉庫上	0.017	0.032	0.019	0.020	0.022

	単位	環境基準値
大気	pg-TEQ/m ³	0.6

水質・底質

単位:水質pg-TEQ/L

単位:底質pg-TEQ/g

実施者	河川名等	調査地点	水質		底質	
			8月	9月	8月	9月
横浜市	1 鶴見川	千代橋	—	0.11	—	0.84
	2 入江川	入江橋	—	0.069	—	7.9
	3 帷子川	水道橋	—	0.059	—	1.3
	4 大岡川	清水橋	—	0.055	—	2.5
	5 宮川	瀬戸橋	—	0.044	—	14
	6 侍従川	平潟橋	—	0.084	—	14
	12 海域	鶴見川河口先	0.13	—	29	—
	13 "	横浜港内	0.053	—	37	—
	14 "	磯子沖	0.032	—	5.2	—
	15 "	平潟湾内	0.054	—	25	—
	17 "	本牧沖	0.039	—	16	—
	18 "	富岡沖	0.049	—	9.6	—

横浜市HPより

実施者	河川名等	調査地点	水質				底質
			11月	12月	2月	年平均※	11月
川崎市	1 三沢川	一の橋	—	0.084	—	—	—
	2 ニヶ領本川	堰前橋	—	0.15	—	—	—
	3 平瀬川	平瀬橋	—	0.099	—	—	—
	4 麻生川	耕地橋	—	0.073	—	—	—
	5 真福寺川	水車橋前	—	0.043	—	—	—
	6 矢上川	日吉橋	—	0.062	—	—	—
	7 早野川	馬取橋	—	0.085	—	—	—
	8 黒須田川	市境	—	1.1	0.33	0.72	—
	9 矢上川	大日橋	—	0.064	—	—	—
	10 有馬川	五月橋	—	0.18	—	—	—
	12 海域	浮島沖	0.078	—	—	—	20
	13 "	京浜運河千鳥町	0.14	—	—	—	42
	14 "	東扇島防波堤西	0.065	—	—	—	18
	15 "	京浜運河扇町	0.30	—	—	—	41
	16 "	扇島沖	0.058	—	—	—	25

実施者	河川名等	調査地点	水質			底質
			8月	2月	年平均※	8月
横須賀市	1 鹿取川	追浜橋	0.13	0.066	0.098	48
	2 平作川	夫婦橋	0.054	0.057	0.056	16
	3 松越川	竹川合流後	0.10	0.082	0.091	5.3
	4 海域	夏島沖	0.049	—	—	18
	5 "	大津湾	0.049	—	—	8.9
	6 "	浦賀港内	0.048	—	—	13
	7 "	久里浜港内	0.058	—	—	3.5
	8 "	小田和湾	0.055	—	—	1.2

実施者	河川名等	調査地点	水質			底質
			8月	1月	年平均※	8月
相模原市	1 鳩川	三段の滝	0.13	0.068	0.099	1.4
	2 "	妙篋橋	0.22	0.36	0.29	3.2
	3 八瀬川	無量光寺下	0.33	0.15	0.24	6.8
	4 境川	常矢橋	0.22	0.11	0.17	1.5
	5 "	鶴金橋	0.19	0.078	0.13	1.3
	6 道志川	両国橋	0.033	—	—	0.086
	7 "	弁天橋	0.044	—	—	0.36
	8 相模川	小倉橋	0.056	—	—	0.23
	9 相模湖	境川橋	0.16	—	—	5.8

実施者	河川名等	調査地点	水質			底質
			11月	3月	年平均※	11月
藤沢市	1 引地川	富士見橋	0.15	—	—	0.66
	2 引地川	稲荷雨水幹線(排出口)	0.088	—	—	—
	3 引地川	大山橋	0.14	—	—	6.5
	4 不動川(引地川)	不動川橋	0.080	—	—	—
	5 小糸川(引地川)	根下橋	1.7	0.15	0.93	—
	6 小糸川(引地川)	永山橋	—	0.27	—	—
	7 蓼川(引地川)	境橋	0.15	—	—	—
	8 一色川(引地川)	桐原橋	0.10	—	—	—
	9 一色川(引地川)	一色下橋下流(排出口)	0.34	—	—	—
	10 一色川(引地川)	稲荷山橋	0.31	—	—	—
	11 境川	高鎌橋	0.058	—	—	—
	12 境川	大道橋	0.059	—	—	0.80
	13 境川	境川橋	0.060	—	—	1.1
	14 柏尾川(境川)	川名橋	0.092	—	—	0.72
	15 白旗川(境川)	陣屋橋	0.060	—	—	—
	16 滝川(境川)	船玉橋	0.054	—	—	—
	17 小出川(相模川)	追出橋	0.28	—	—	—
	18 目久尻川(相模川)	道庵橋	0.12	—	—	—
	19 目久尻川(相模川)	久保田橋	0.19	—	—	—

実施者	河川名等	調査地点	水質	底質
			11月	11月
南足柄市	1 内川	清掃工場裏	0.054	0.26
	2 貝沢川	狩川合流付近	0.10	0.87
	3 狩川	岩原橋付近	0.057	0.28
	4 分沢川	小田原市境	0.051	2.8

※) 水質の年平均値については、2回調査を行った地点のみ記載した。

	単位	環境基準値
水質	pg-TEQ/L	1
底質	pg-TEQ/g	150

土 壤

単位: pg-TEQ/g

実施者	調査地点		1-2月
	所在地	地点名	
横浜市	1 鶴見区大黒ふ頭1	大黒ふ頭中央緑地	10
	2 神奈川区白幡上町11-1	白幡小学校	0.20
	3 中区本牧ふ頭1-16	横浜港シンボルタワー	5.8
	4 港南区港南台四丁目11-1	小坪小学校	0.0016
	5 旭区中沢三丁目25-1	中沢小学校	0.67
	6 金沢区福浦一丁目12	休憩緑地1-C	65
	7 緑区鴨居四丁目7-15	鴨居小学校	0.0035
	8 青葉区市ヶ尾町1632-1	市が尾小学校	0.0034
	9 戸塚区2447-2	下郷小学校	0.0029
	10 泉区和泉町6211	いずみ野小学校	0.31

横浜市HPより

実施者	調査地点	7月
川崎市	1 殿町第1公園	4.3
	2 伊勢町第1公園	1.9
	3 小田7丁目公園	0.38
	4 浅田町公園	3.7
	5 古市場第1公園	1.5
	6 柳町公園	1.8
	7 下沼部公園	8.3
	8 小杉陣屋町公園	9.4
	9 諏訪河原公園	1.1
	10 千年中央公園	0.60
	11 野川第5公園	1.8
	12 上作延農住公園	2.1
	13 有馬なかよし公園	0.67
	14 長尾第3公園	1.3
	15 土橋2丁目公園	3.3
	16 宿河原本村公園	0.18
	17 菅第3公園	3.9
	18 向の岡公園	19
	19 宿河原公園	6.9
	20 高石さくら公園	1.2
	21 五力田見晴らし公園	0.25
	22 栗木台まみ沢公園	0.78

実施者	調査地点	10月
横須賀市	1 湘南鷹取5丁目第2公園	2.0
	2 東逸見3丁目公園	9.8
	3 金谷2丁目公園	0.71
	4 吉井1丁目公園	0.72
	5 小原台第4公園	0.46
	6 長坂第3公園	2.2
	7 岩戸4丁目公園	14
	8 大矢部公園	6.3
	9 長瀬第3公園	8.4
	10 長井屋形公園	2.2
	16 林3丁目第2公園	0.84
	17 長沢七軒町公園	1.7

実施者	調査地点	8月
相模原市	1 広田小学校	2.6
	2 旭小学校	3.0
	3 清新小学校	6.8
	4 星が丘小学校	7.3
	5 相模台小学校	2.7
	6 藤野南小学校	2.5
	7 千木良小学校	2.3
	8 鳥屋中学校	2.9

実施者	調査地点	11月
南足柄市	1 旧春日山荘ゲートホール場	12
	2 大畑倉庫前	6.6
	3 福泉児童館	1.3
	4 いずみ自治会公民館付近	4.4

	単位	環境基準値
土 壤	pg-TEQ/g	1,000
調査指標値は250pg-TEQ/g		

地下水

単位:pg-TEQ/L

実施者	調査地点		11月
横浜市	1	緑区長津田町	0.088
	2	青葉区市ヶ尾町	0.089
	3	都筑区東方町	0.088
	4	中区山元町	0.092
	5	港北区新吉田東一丁目	0.089
	6	港北区樽町三丁目	0.095
	7	港南区芹が谷五丁目	0.092
	8	磯子区下町	0.089
	9	泉区中田北三丁目	0.089

横浜市HPより

実施者	調査地点		6月	7月	9月
川崎市	1	川崎区旭町	—	0.027	—
	2	川崎区堤根	—	—	0.025
	3	幸区南加瀬	0.023	—	—
	4	中原区中丸子	0.025	—	—
	5	中原区丸子通	—	—	0.026
	6	高津区千年	0.025	—	—
	7	高津区下作延	0.022	—	—
	8	宮前区犬蔵	—	0.018	—
	9	多摩区西生田	—	0.026	—
	10	多摩区中野島	—	0.022	—
	11	麻生区下麻生	0.019	—	—
	12	麻生区高石	0.025	—	—
	13	麻生区岡上	0.019	—	—
	14	麻生区黒川	0.019	—	—

実施者	調査地点		10月
横須賀市	1	汐入町	0.053
	2	東浦賀町	0.081
	3	武	0.10
	4	長井	0.048

実施者	調査地点		8月
相模原市	1	城山町中沢	0.029
	2	橋本	0.030
	3	小山	0.029
	4	並木	0.049
	5	西大沼	0.028
	6	藤野町牧野	0.028
	7	相模湖町若柳	0.029
	8	津久井町青野原	0.028

	単位	環境基準値
水質	pg-TEQ/L	1

参考資料2 大気調査対象物質の概要について

物 質 名	用 途	主な排出源	健 康 へ の 影 響	基 準 値 等
トルエン	ポリウレタンの原料、染料や農薬などの原料、クレゾールなどを合成する原料	事業所、自動車排ガス等	長期間にわたって体内に取り込むと、視野狭さく、難聴、運動失調、記憶喪失などの中枢神経機能の障害が慢性化（いわゆるシンナー中毒）	室内濃度指針値 ：260 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
キシレン	油性塗料、接着剤、印刷インキ、シンナー、農薬などの溶剤	塗料を扱う事業所、自動車排ガス、家庭塗料等	眼やのどに対する刺激性、中枢神経に影響、シックハウス症候群との関連が疑われている。	室内濃度指針値 ：870 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
エチルベンゼン	スチレンモノマーの原料、油性塗料・接着剤・インキなどキシレンの中の一成分	塗料を扱う事業所、自動車排ガス等	シックハウス症候群との関連が疑われている。	室内濃度指針値 ：3,800 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
p-ジクロロベンゼン	衣類の防虫剤、トイレなどの防臭剤	防虫剤、防臭剤等（ほとんどが家庭）	シックハウス症候群との関連が疑われている。	室内濃度指針値 ：240 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
ジクロロメタン	ペイントはく離剤、金属脱脂洗浄剤、冷媒、抽出溶剤	金属部品洗浄事業所等	麻酔作用、めまい、吐き気、だるさ、しびれ	大気環境基準 ：150 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
ベンゼン	有機合成原料、絶縁油、染料、合成ゴム、スチレンモノマー等原料、溶剤	自動車排ガス等	麻酔作用、造血機能障害、発ガン性	大気環境基準 ：3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
1,3-ブタジエン	合成ゴム、合成樹脂の原料	自動車排ガス等	微生物や生物細胞を使った変異原性の試験で、陽性を示す。	有害大気汚染物質に係る指針値 ：2.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
スチレン	合成樹脂、合成ゴム、合成樹脂塗料の原料	事業所、自動車排ガス等	シックハウス症候群との関連が疑われている。	室内濃度指針値 ：220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
トリクロロエチレン	金属脱脂洗浄、各種溶剤、殺虫剤、羊毛脱脂洗浄	金属製品製造業などの事業所	麻酔作用、神経障害	大気環境基準 ：200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
ホルムアルデヒド	合成樹脂原料、界面活性剤、農薬、消毒剤、防腐剤、有機合成原料	自動車排ガス等	皮膚炎、気管支炎、喘息様症状	室内濃度指針値 ：100 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
アセトアルデヒド	酢酸エチル、酢酸、過酢酸、無水酢酸の原料、香料	自動車排ガス等	シックハウス症候群との関連が疑われている。 変異原性に関して、ヒトリンパ球を使った染色体異常試験において陽性を示す。	室内濃度指針値 ：48 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
アクロレイン	栄養強化剤、メチオニンの原料、アクリル酸エステル原料、繊維処理剤	自動車排ガス等	ヒトリンパ球や細胞などを使った変異原性の試験に陽性を示す、鼻粘膜の変性や鼻炎	作業環境許容濃度 ：230 $\mu\text{g}/\text{m}^3$

参考資料3 水域調査対象物質の概要について

物 質 名	用 途	主な排出源	水生生物等への影響	基準値等または 全国調査の 結果の範囲等
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸(LAS)	界面活性剤(家庭用・業務用洗剤)	家庭	水生生物に対する有害性がある。	200 μ g/L以下(水道水質基準値、陰イオン界面活性剤として)
ポリオキシエチレンアルキルエーテル(C=12～15)	界面活性剤(家庭用・業務用洗剤)	家庭	水生生物に対する有害性がある。	20 μ g/L以下(水道水質基準値、発泡防止の観点から非イオン界面活性剤として設定)
キシレン	合成原料、溶剤	事業所(輸送用機械器具製造業)、建築現場、自動車	水生生物に対する有害性がある。	400 μ g/L以下(要監視項目指針値)
ビス(水素化牛脂)ジメチルアンモニウムクロリド [*]	界面活性剤(衣料用柔軟仕上げ剤、リンス剤)	家庭、事業所	水生生物に対する有害性がある。	94 μ g/L以下(水生生物に対する無影響濃度、日本石鹼洗剤協会)
トリブチルスズ	船底塗料、漁網防汚剤(これらの用途では、現在、我が国では使用されていない)、殺菌剤	外航船舶、環境残留	イボニシ(巻き貝の一種)に対する内分泌かく乱作用が確認されている。	ND～0.09 μ g/L(水質) ND～200 μ g/kg(底質) ND～120 μ g/kg-wet(水生生物)
トリフェニルスズ	船底塗料、漁網防汚剤(これらの用途では、現在、我が国では使用されていない)、殺菌剤	外航船舶、環境残留	イボニシ(巻き貝の一種)に対する内分泌かく乱作用が確認されている。	ND～0.004 μ g/L(水質) ND～16 μ g/kg(底質) ND～210 μ g/kg-wet(水生生物)
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	可塑剤(塩化ビニル樹脂)	事業所(プラスチック製品製造業)	水生生物に対する有害性がある。	ND～9.9 μ g/L(水質) ND～210,000 μ g/kg(底質) ND～190 μ g/kg-wet(水生生物) 60 μ g/L以下(水質・地下水要監視項目指針値) 100 μ g/L以下(水道水質管理目標値)

物 質 名	用 途	主な排出源	水生生物等への影響	基準値等または 全国調査の 結果の範囲等
ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル	界面活性剤(乳化剤、洗浄剤、農薬用展着剤)	農薬の使用、家庭	水生生物に対する有害性がある。	20 μ g/L以下(水道水質基準値、臭味発生防止の観点から非イオン界面活性剤として設定)
ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル	界面活性剤(乳化剤、洗浄剤、農薬用展着剤)	農薬の使用、家庭	水生生物に対する有害性がある。	20 μ g/L以下(水道水質基準値、発泡防止の観点から非イオン界面活性剤として設定)
フタル酸ジ-n-ブチル	添加剤(塗料、顔料、接着剤)、可塑剤(合成皮革、塩化ビニル樹脂)	中小事業所	水生生物に対する有害性がある。	ND $\sim$ 2.3 μ g/L(水質) ND $\sim$ 2,000 μ g/kg(底質) ND(水生生物)
1,4-ジオキサン	溶剤、分散剤	事業所(化学工業)	(動物実験で発がん性が認められている。)	50 μ g/L以下(水質要監視項目指針値、水道水質基準)
ノニルフェノール	工業用界面活性剤・酸化防止剤の原料、印刷インク of 材料	事業所(輸送用機械製造業など)	メダカに対する内分泌かく乱作用が推察されている。	ND $\sim$ 21 μ g/L(水質) ND $\sim$ 4,900 μ g/kg(底質) ND $\sim$ 780 μ g/kg-wet(水生生物)
4-t-オクチルフェノール	工業用界面活性剤・油性フェノール樹脂の原料	事業所(化学工業など)	メダカに対する内分泌かく乱作用が推察されている。	ND $\sim$ 13 μ g/L(水質) ND $\sim$ 45 μ g/kg(底質) ND $\sim$ 30 μ g/kg-wet(水生生物)
ビスフェノールA	合成樹脂原料(ポリカーボネート樹脂、エポキシ樹脂)	事業所(化学工業、輸送用機械器具製造業など)	メダカに対する内分泌かく乱作用が推察されている。	ND $\sim$ 1.7 μ g/L(水質) ND $\sim$ 67 μ g/kg(底質) ND $\sim$ 15 μ g/kg-wet(水生生物)
17 β -エストラジオール	女性ホルモン	下水(人、家畜)	魚類に対して女性ホルモン作用がある。	ND $\sim$ 0.041 μ g/L(水質) ND $\sim$ 16 μ g/kg(底質)